

## 第六章 働き方とライフスタイル

### 1. はじめに

前章では人材を誘引する都市の特性・機能について、福岡市及び北九州市のインキュベータ入居企業など、イノベーションを志向していると思われる企業で働いている人を対象に調査を行った。その結果、都市の賑わいよりも、堅実に生活できることを優先していることが分かった。しかし、この傾向は福岡市と北九州市といった北部九州に限られた、ある意味では特別な地域を対象にした調査であり、国内の他の地域の傾向を代表するものではないのではなかろうかといった疑問が残った。

そこで今回、調査の対象地域を広げて改めて調査を行うことにした。具体的には、首都圏を代表して「東京 23 区」、福岡市と北九州市と規模と性格を同じにし、かつクラスターが形成されている都市として「京都市」と「浜松市」、最後に地方の中核都市を代表して「熊本市」を選定した。なお、東京 23 区を除くこれら都市は、当研究会の地域イノベーションに関する研究<sup>1)</sup>において分析の対象とした都市である。また、調査内容も「住みたくなる都市」に限定することなく、広範に調査した方がよいのではないかと考えて、働き方とライフスタイルにまで広げてみた。

### 2. 調査方法

調査の対象及び方法は次のとおりである。

- 調査対象都市 : 東京 23 区、京都市、浜松市、北九州市、福岡市、熊本市 (合計 6 都市)
- 調査対象者 : 職業…技術系会社員、年齢…20 歳以上 60 歳未満
- 調査方法 : インターネットリサーチ (株式会社マクロミル [www.macromill.com](http://www.macromill.com))
- 回答予定数 : 100 件/都市 (合計 600 件)

なお、調査票を章末(pp133~135)に添付する。

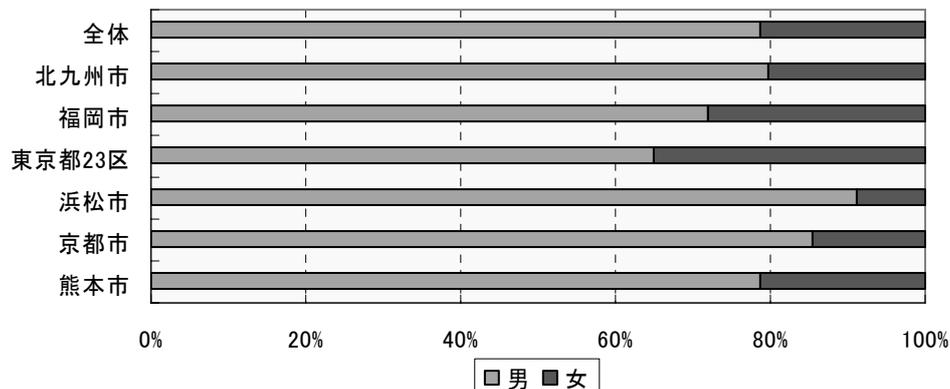
### 3. 調査結果

#### (1)回答者の内訳

以下に、回答者 618 件(103 件\*6 都市)における属性毎の内訳を示す。

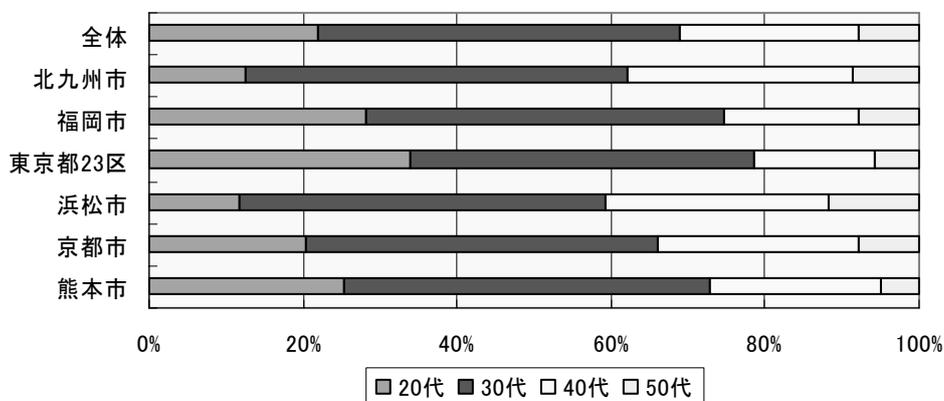
##### ①性別

男女比は 4:1 であり、東京 23 区が女性の比率が高く(35.0%)、一方、浜松市が低い(8.7%)。



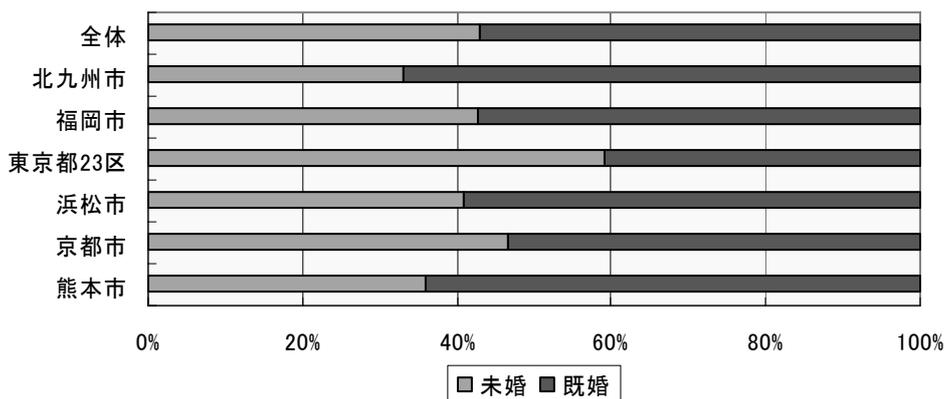
## ②年齢

全体的に30代が最も多く、次に40代、20代と続く。なお、東京23区と福岡市において、20代の若年者が多く、一方、北九州市及び浜松市においては少なく、40代が多い。



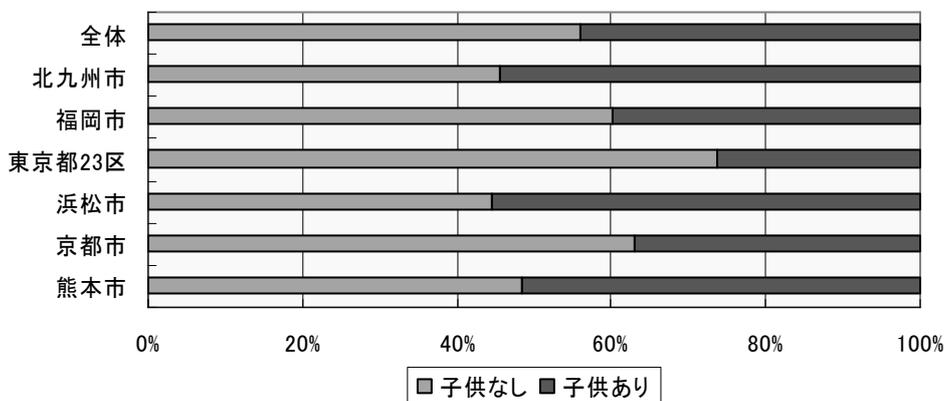
## ③未婚・既婚

未婚と既婚の割合は、全体では4:6である。東京23区においては、若年者が多いこともあって、未婚と既婚の割合が逆転している。



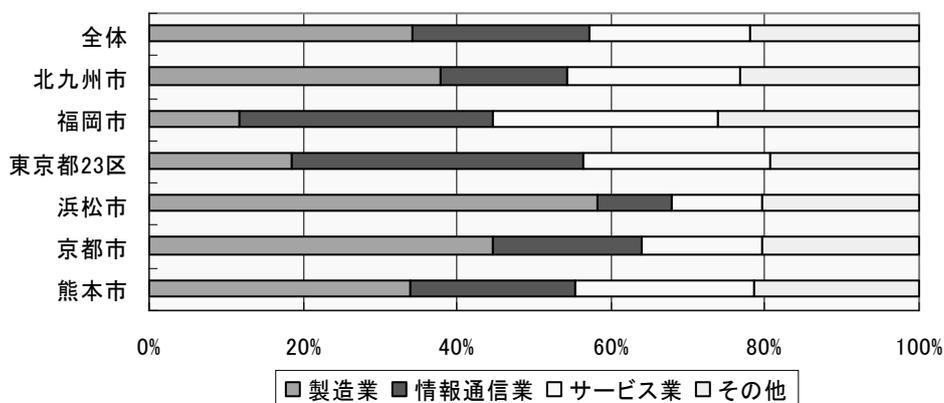
## ④子供の有無

子供なしと子供ありの割合は、全体では1:1であり、概ね未婚・既婚と同様の傾向を示している。



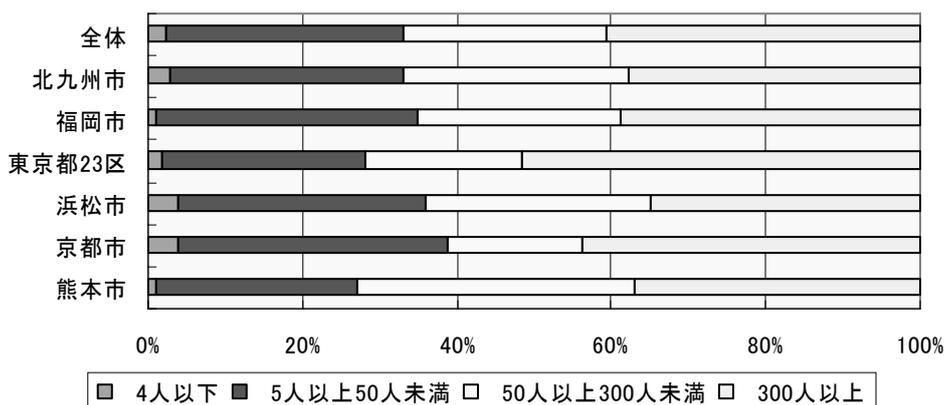
### ⑤所属する企業のタイプ

福岡市と東京 23 区において、情報通信業が多く、製造業が少ない。一方、浜松市においては、製造業が多く、情報通信業とサービス業が少ない。



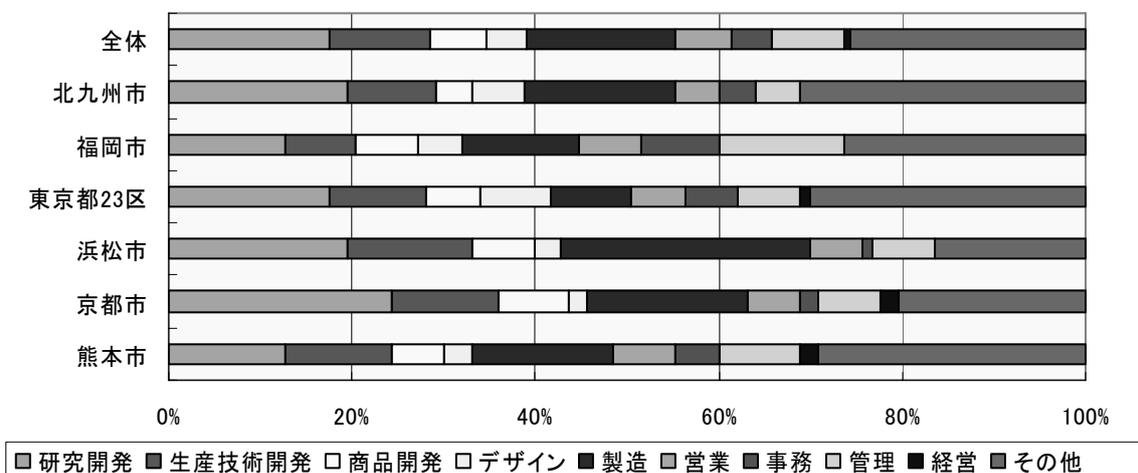
### ⑥所属する企業の規模

東京 23 区においては、他都市に比べて、企業規模が大きいことが分かる。



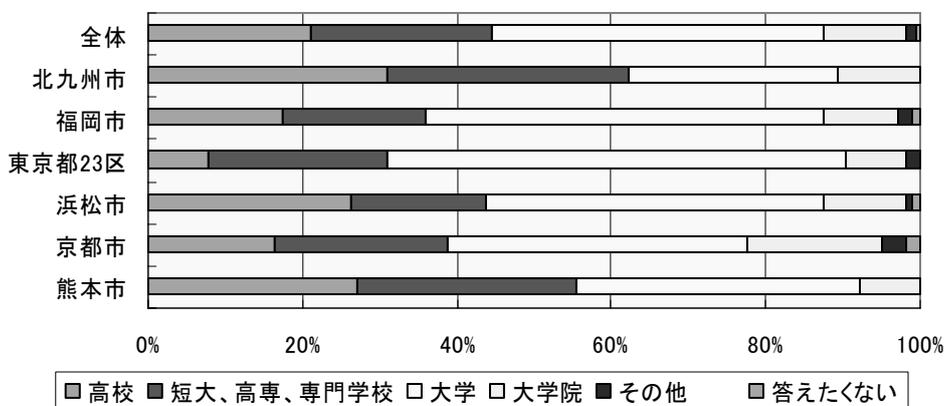
### ⑦職種

特徴的なのは、浜松市において製造職が多く、京都市において研究職が多いことである。



## ⑧最終学歴

東京 23 区において大学卒が多く、一方、北九州市と熊本市においては少ない。なお、京都市においては大学の集積密度が高いためか、大学院卒の割合が高い。



## (2)属性毎の分析結果

### ①働く目的（複数回答）

全体では、「収入を得るため」が最も多く(93.4%)、以下、「より豊かな生活をおくるため」(44.7%)、「自分を成長させるため」(31.4%)、「自分の能力を發揮するため」(24.6%)と続く。また、これら目的を「経済的なもの」と「自己実現的なもの」に大別して見てみると、前者が 63.6%となり、まずは経済的なものを優先していることが分かる。後者についても 27.1%あり、自分を高めるために、または活かすために前向きに働いていることが分かる。

- 経済的なもの …「収入を得るため」、「より豊かな生活をおくるため」、「財産を築くため」
- 自己実現的なもの…「自分を成長させるため」、「自分の能力を發揮するため」、「自分の夢を実現するため」

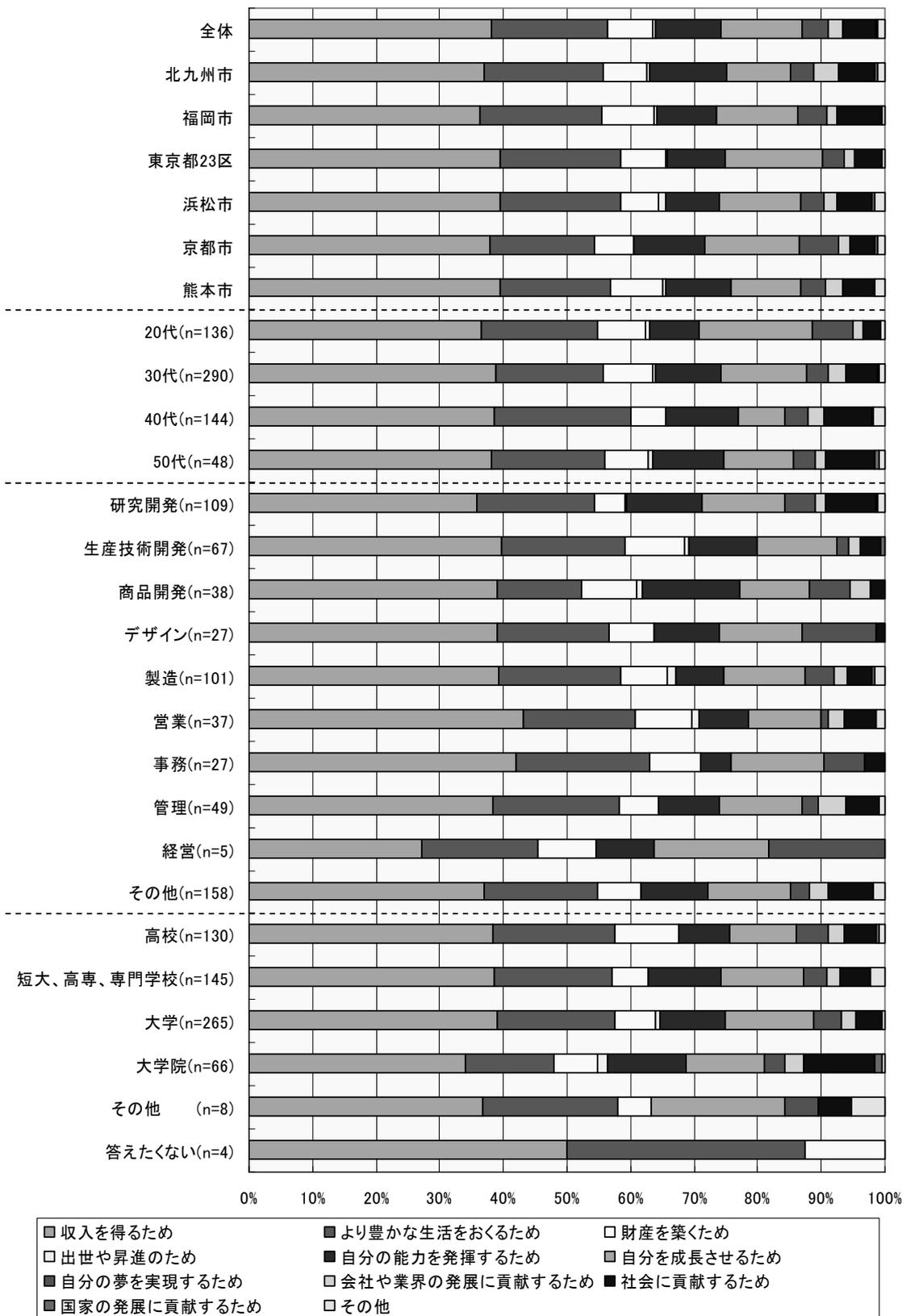
次に、いくつかの属性について見てみると、まず、対象地域での差異は見られなかった。強いて云えば、東京 23 区において、「自分を成長させるため」が多かったが、これは 20 代の若年者によるものであると考えられる(後述)。

年代については、40 代において、子育てや住宅ローン等でお金がかかることもあって、「より豊かな生活をおくるため」が高く、反面、「自分を成長させるため」が低く、生活に余裕がないことが伺える。20 代については、「自分を成長させるため」が多く、向上意欲が伺える半面、会社や社会、国家への貢献意欲は低く、社会への帰属意識が弱く、世相を現しているものと云える。

職種については、商品開発職において、「より豊かな生活をおくるため」が低く、代わって「自分の能力を發揮するため」が高くなっており、自己実現意欲が高いことが伺える。また、職種を「現業的なもの」と「開発的なもの」に分けて見てみると、前者について、やや経済的なものを優先していることが分かる。なお、会社や社会、国家への貢献に対しては、差異はない。

- 現業的なもの…「製造」、「営業」、「事務」
- 開発的なもの…「研究開発」、「生産技術開発」、「商品開発」、「デザイン」

最終学歴については、大学院卒において、経済的なものが低く、反面、「社会貢献」が他に比べて著しく高い。



## ②職業観 — 終身雇用か、転職・独立か —

全体では、「良い条件の会社があれば、転職を考えたい」が最も多く(54.0%)、次に「定年退職まで、現在の会社で働きたい」(21.5%)が続く。また、職業観を「終身雇用」と「転職・独立」に二分してみると、前者の21.5%に対して、後者が70.2%に上り、10人のうち7人は現在の会社に定年退職までとどまろうとは思っていないことが分かる。今回の調査対象者が、ネットリサーチに登録している比較的進歩的な方であることから、こういった結果になったのではないかと推測される。

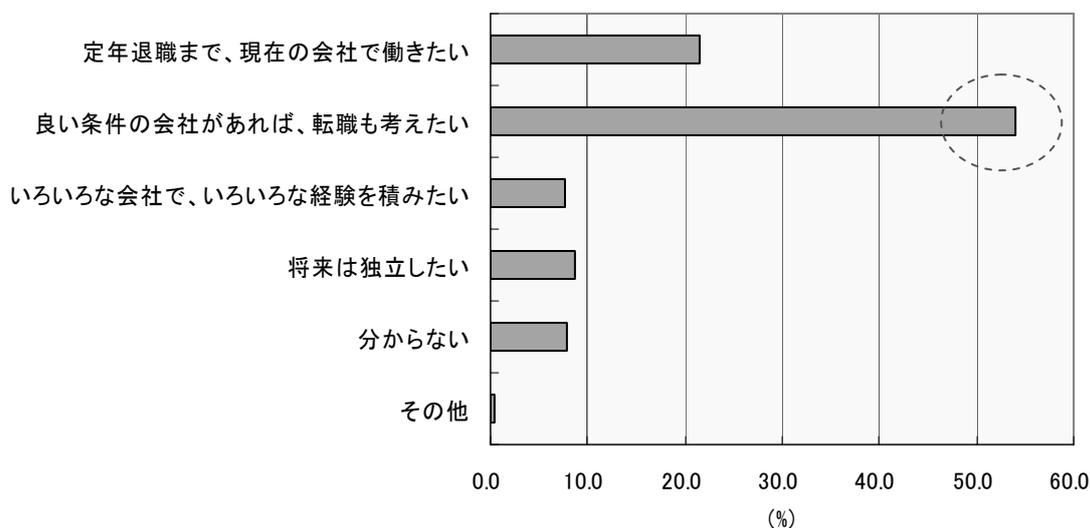
- 転職・独立・・・「よい条件があれば転職も考えたい」、「いろいろな会社で経験を積みたい」、「将来は独立したい」

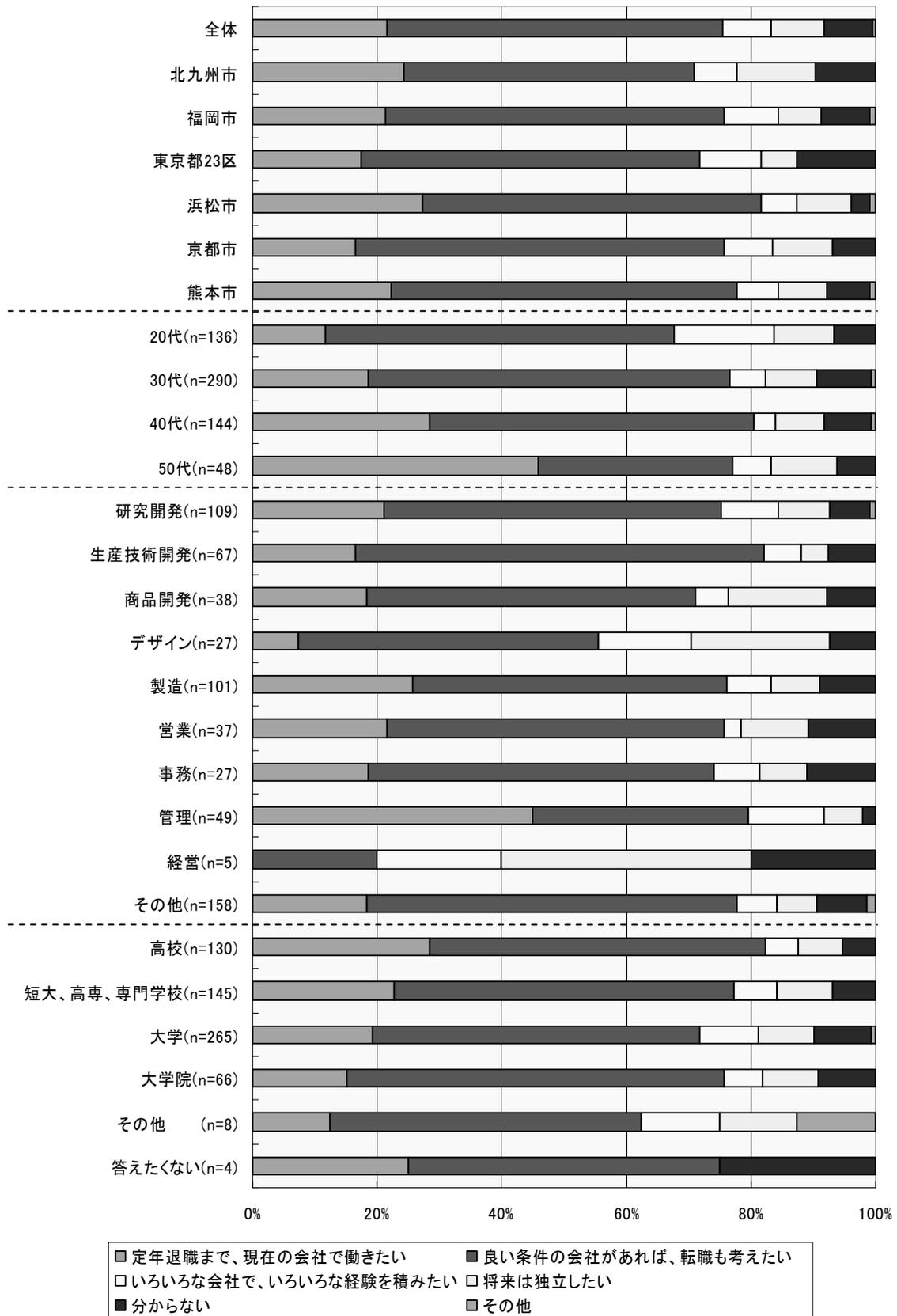
次に、いくつかの属性について特徴的な傾向がないか見てみると、まず、対象地域について、京都市は転職志向が強く、一方、浜松市は終身雇用志向が強い。これは職種、最終学歴による影響が少なからずあるものと考えられる(後述)。また、北九州市においては、転職志向が弱いものの、独立志向は強い。

年代については、若年者ほど終身雇用志向が弱く、「いろいろな会社で、いろいろな経験が積みたい」と考えている。また、50代において、「将来は独立したい」が多くなり、第二の人生を考えていることが伺える。

職種については、デザイン職において転職・独立志向が強く、また、生産技術開発職は虎視眈々と転職の機会を伺っていることが分かる。研究開発職は、転職・独立志向が強いのではないかと予想されたが、結果的には平均的であった。管理職と製造職が、終身雇用を志向しており、安定を望んでいることが分かる。なお、現業及び開発による顕著な差異は見られなかった。

最終学歴については、高校卒が終身雇用を志向し、高学歴になるに伴い、転職・独立志向が強くなっている。





### ③日常生活における充実感

全体では、「まあ充実感を感じている」、「あまり充実感を感じていない」といった中庸な回答が、80%を超えていた。今後の情勢しだいでは、どちらかに変貌する可能性があると予想される。また、充実感を感じている人が約60%、反対に充実感を感じていない人が40%弱存在しており、概ね幸せに生活できていることが分かる。

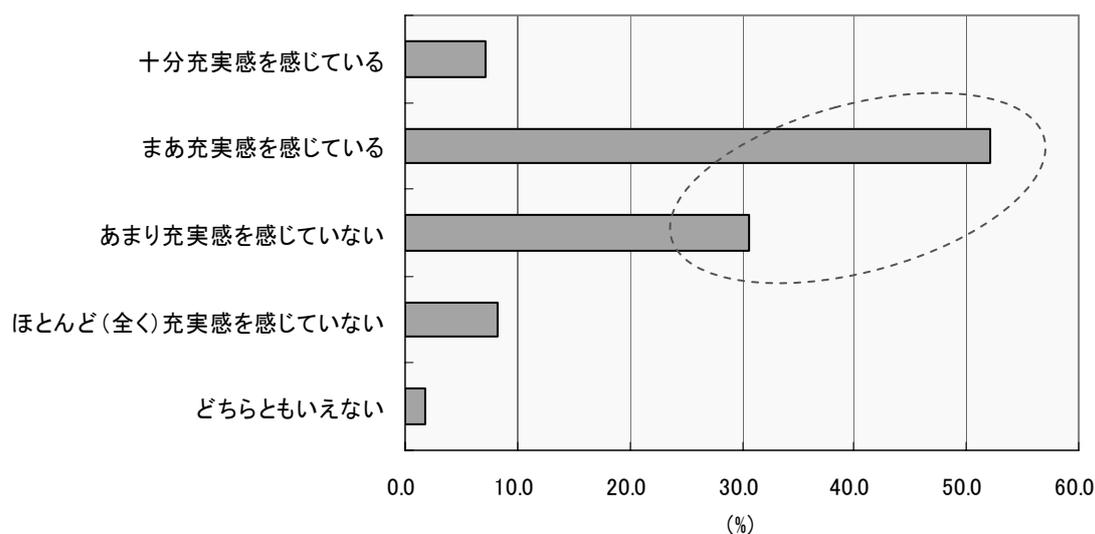
次に、対象地域で見たが、差異はなかった。

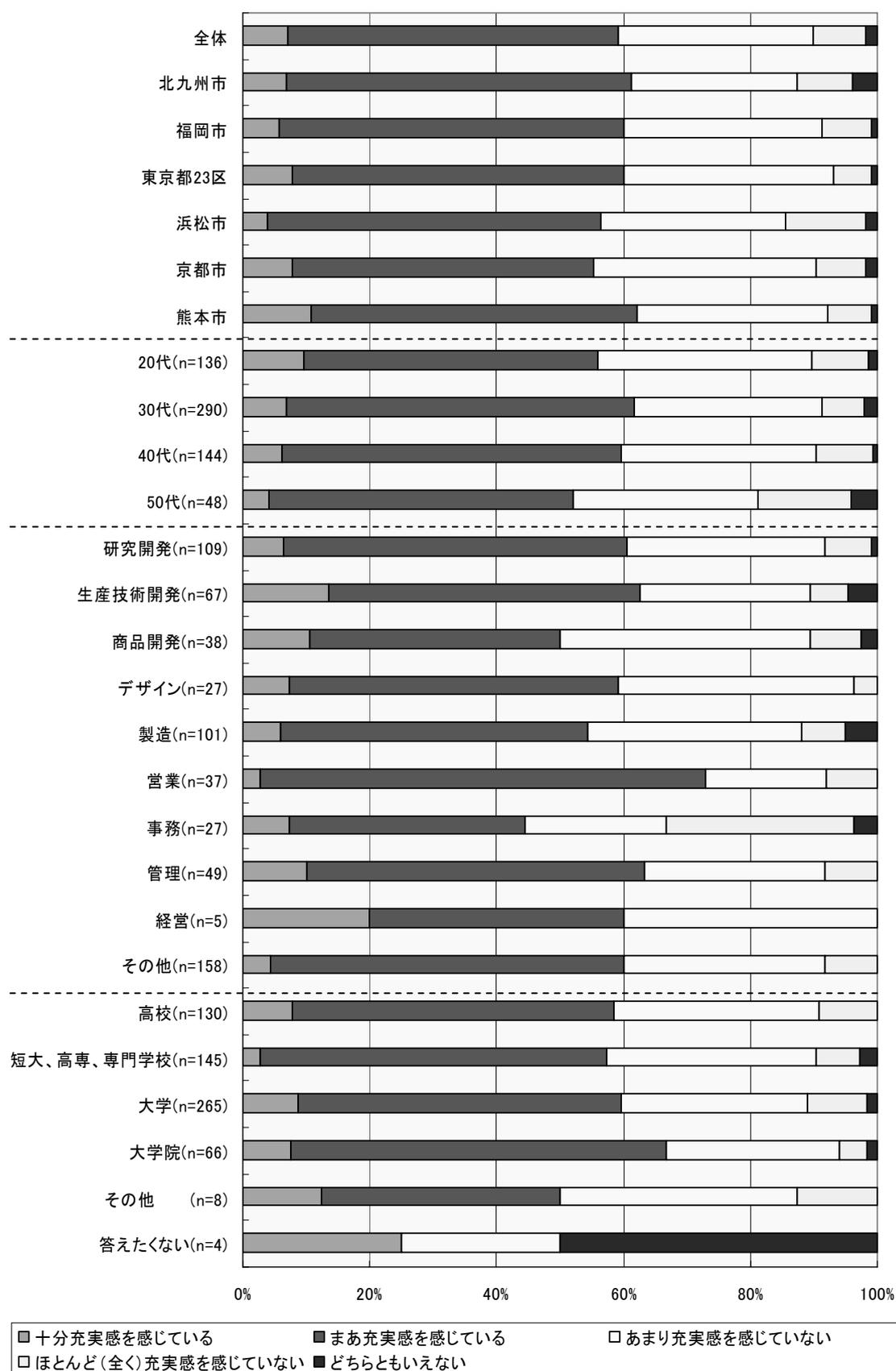
年代では、50代でやや満足感を感じていない人が多くなっており、会社における自分自身の立場の変化や将来への不安など、いろいろな影響があるものと予測される。

職種では、営業職において満足感が高く、一方、商品開発職や事務職において低い。なお、とくに事務職において、ほとんど(全く)充実感を感じていない人の割合が高く、単調な仕事からくるストレスなどが影響しているのではないかと予想される。なお、現業及び開発による差異は見られなかった。

最終学歴では、大学院卒の満足感がやや高い以外は、差異はほとんどない。

全体を通じて、日常生活の充実感には、あまり差異がないことが分かる。





#### ④今後の生活の力点（複数回答）

全体では、「趣味・スポーツ・レジャー」が最も多く(60.0%)、以下、「家族との団欒」(55.3%)、「健康」(40.5%)、「仕事」(34.3%)、「自己啓発・能力向上」(30.7%)と続く。これらを「自分自身」、「家庭」、「仕事」の3つに大別してみると、第一位が「家庭」で38.1%、第二位が「自分自身」で僅差の36.0%、第三位が「仕事」の13.6%となる。前項①の回答も含めて、立身出世することが善とされた仕事中心の時代から、自己実現や家庭を大切にする個人の時代へと移り変わっていることが伺える。

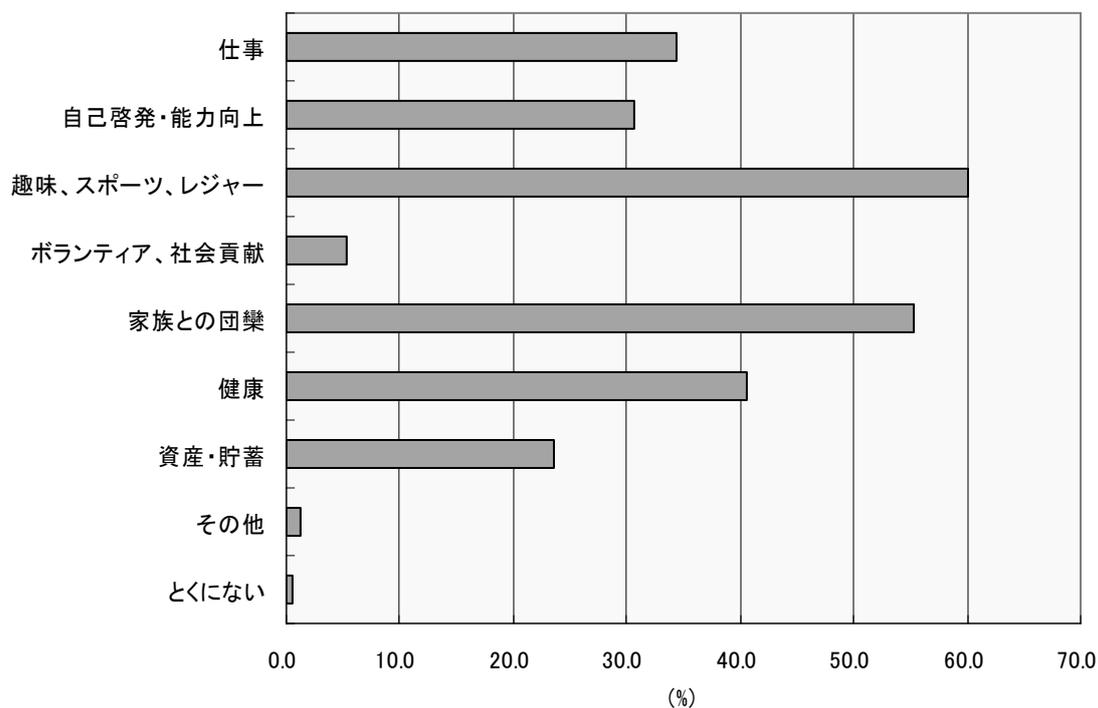
- 自分自身 …「趣味・スポーツ・レジャー」、「自己啓発・能力向上」
- 家庭 …「家族との団欒」、「健康」

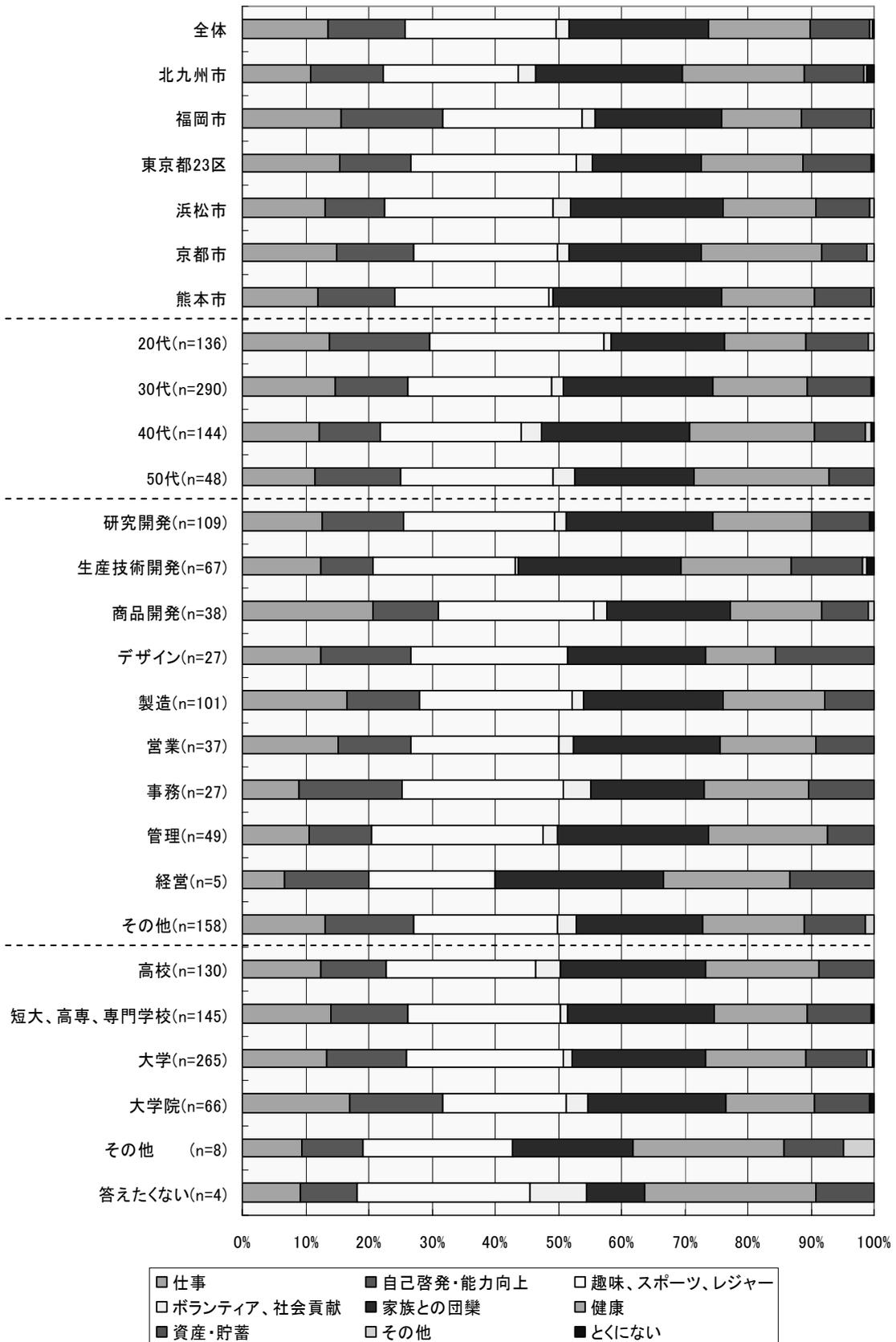
次に、対象地域では、福岡市において「自己啓発・能力向上」が高いとか、東京都23区において「家族との団欒」が低いといった個々に特徴があるものの、先の3つの分類について、顕著な傾向は見ることができなかった。

年代については、20代において、「自分自身」を重視し、「家庭」を軽視する、40代では反対に「自分自身」を軽視し、「家族・家庭」を重視するというある意味当然の傾向が見られた。

職種については、個々の職種毎に特徴はあるものの、現業職と開発職といった視点から傾向を見ることはできなかった。

最終学歴では、大学院卒において、「仕事」と「自己啓発・能力向上」を重視し、その分「趣味・スポーツ・レジャー」といった余暇の部分削っている。





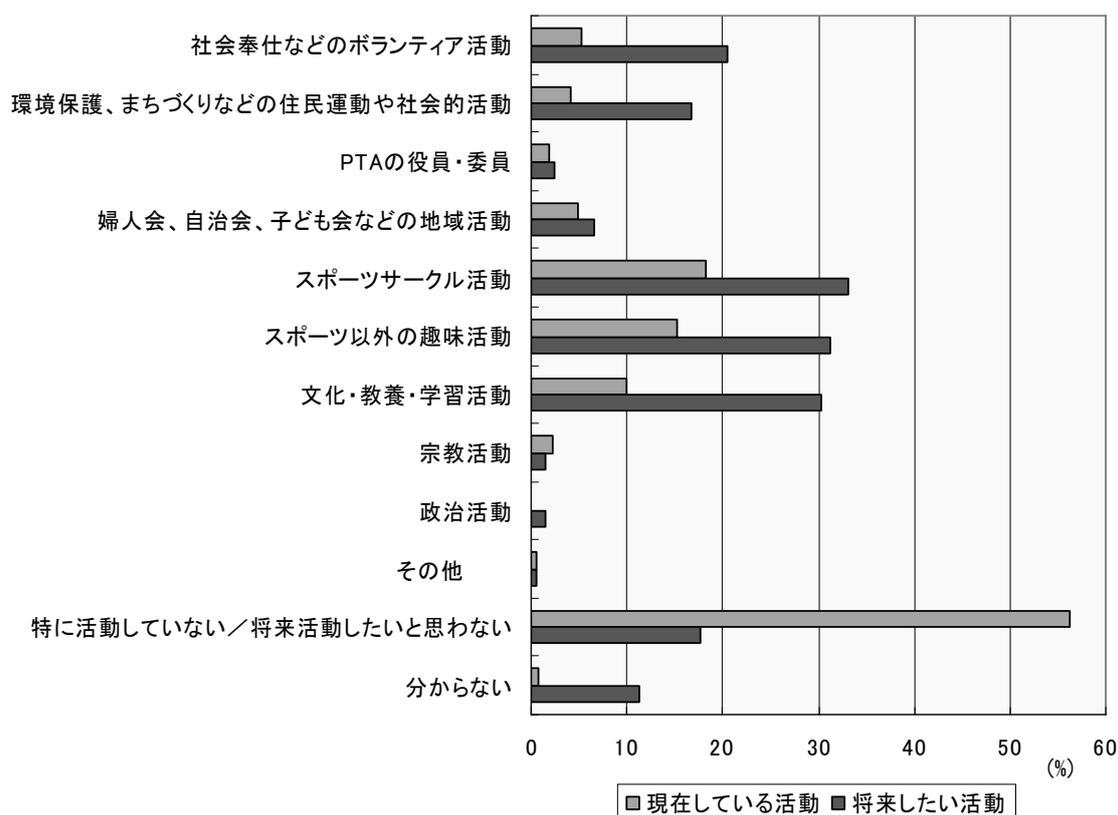
### ⑤家庭外での活動 —現在&将来— (複数回答)

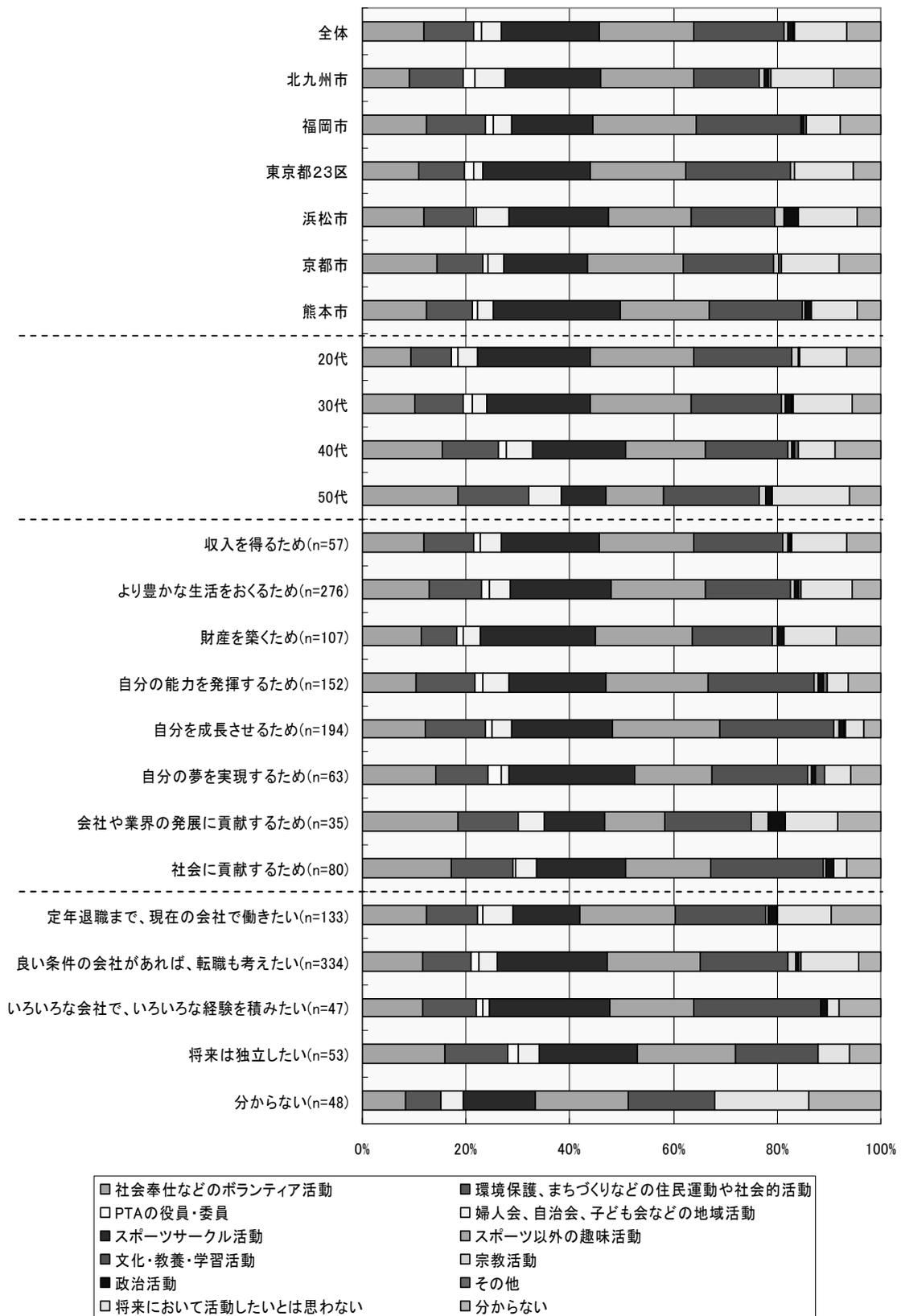
現在の活動状況を見てみると、「とくに活動していない」人がもっとも多い。ただし、「将来においても活動したいと思わない」人は1/3程度に減少することから、日常の忙しさや活動のきっかけ・機会がないことなどにより、現在とくに活動していないものと考えられる。

活動の内容は、ボランティア活動やまちづくりなどの住民運動といった「社会奉仕的もの」と、スポーツサークルや趣味・文化などの「趣味的なもの」に大別される。現在及び将来においても、後者の方が高いが、期待率(将来/現在)は前者の方が高く、何らかの形で社会に貢献したい前向きな気持ちが伺える。

将来の活動希望について、まず、年代で見ると、年齢が増すに伴い、社会的な活動への参画意欲が高まっている。

また、顕著な傾向が見られるわけではないが、職業観として、自己実現志向及び転職志向が強い人は、趣味的な活動をしたいと考えていることが分かる。いずれにしても、自分の人生を豊かにするために、いろいろなことに挑戦したいという意欲が伺える。なお、開発職と現業職の間に差異はなかった。





注記、将来の活動希望、n>30

## ⑥現在住んでいる都市への愛着

全体では、2/3の人が「愛着を感じている」、1割の人が「愛着を感じていない」、1/4の人が「どちらともいえない」となっている。

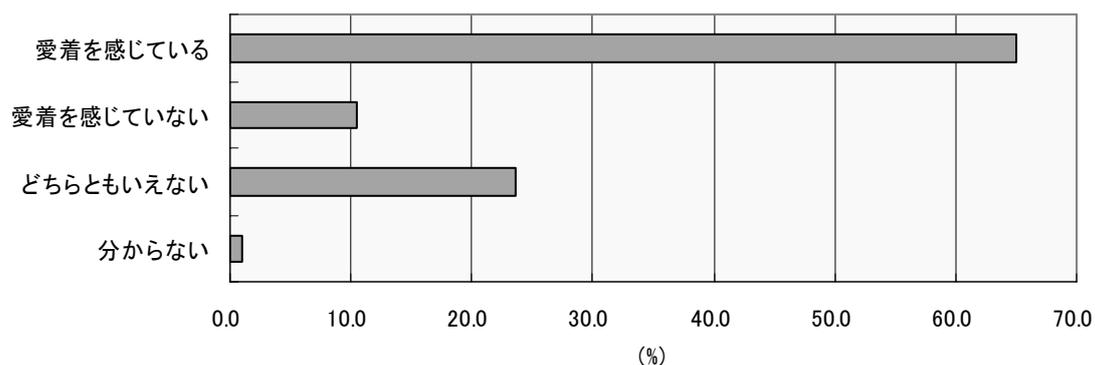
対象地域では、福岡市及び京都市において「愛着を感じている」が高く、北九州市及び浜松市において「愛着を感じていない」が低くなっている。なお、これらの都市の特徴としては、前者の都市が人口150万人程度の大都市、かつ県庁所在都市ということで、人・モノ・情報が集まる中核的な都市になっている反面、後者は都市規模は大きいものの、工業都市であり、ややバランスに欠けるところがある。

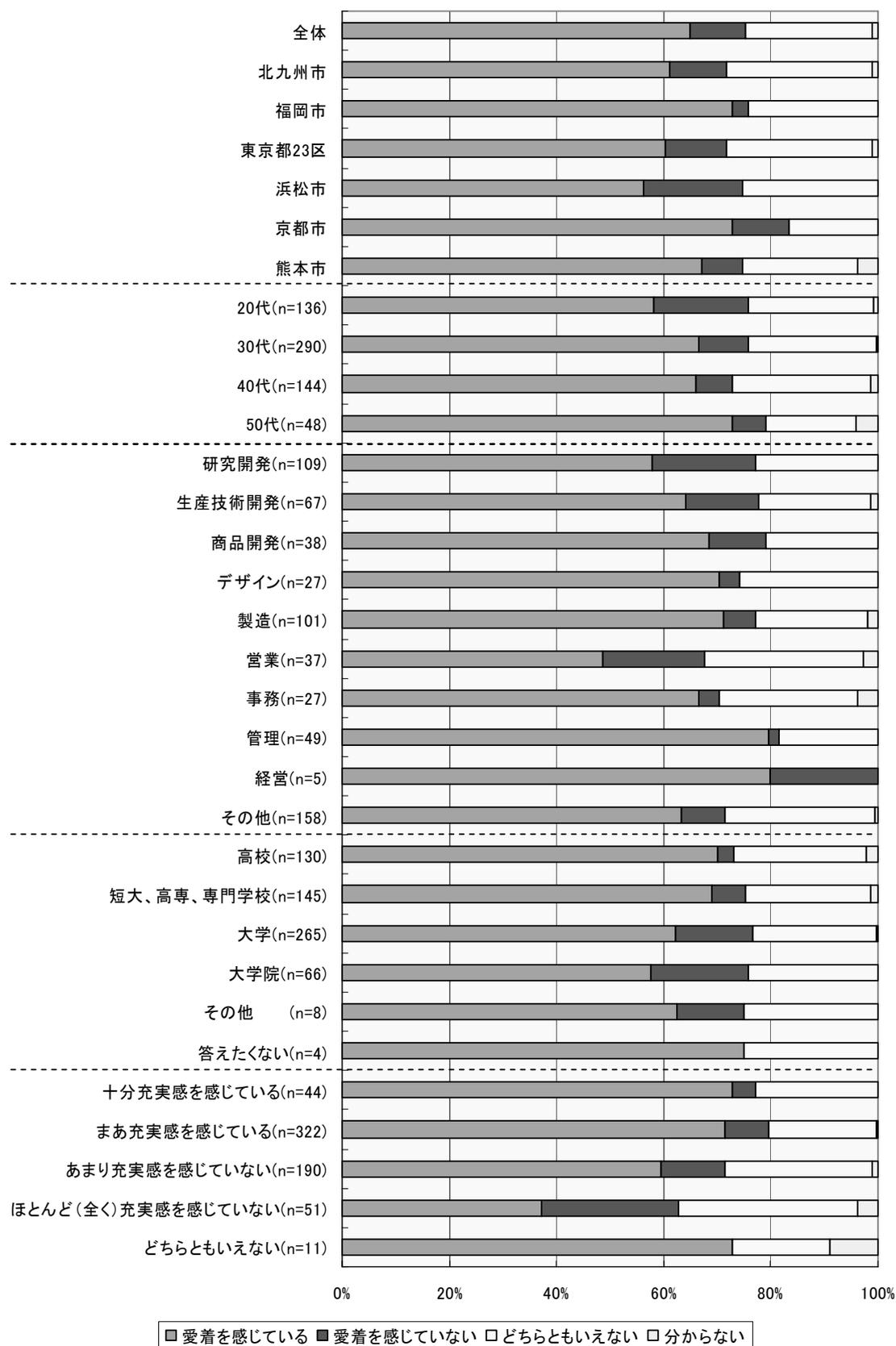
年代では、年齢が高くなるに伴い、地域への愛着が高まっている。

職種では、現業職と開発職の間で差異を見出すことはできない。なお、営業職は転勤が多いためか、愛着を示す人の割合が激減する。

最終学歴では、仕事や能力向上を重視する(前項④)大学院卒において愛着度が低い。概して学歴が高くなるに伴って、愛着度が低くなる傾向が見られる。

最後に、現在の生活に充実感を感じている人ほど、地域に対して愛着を感じている。





### ⑦転居の誘引（複数回答）

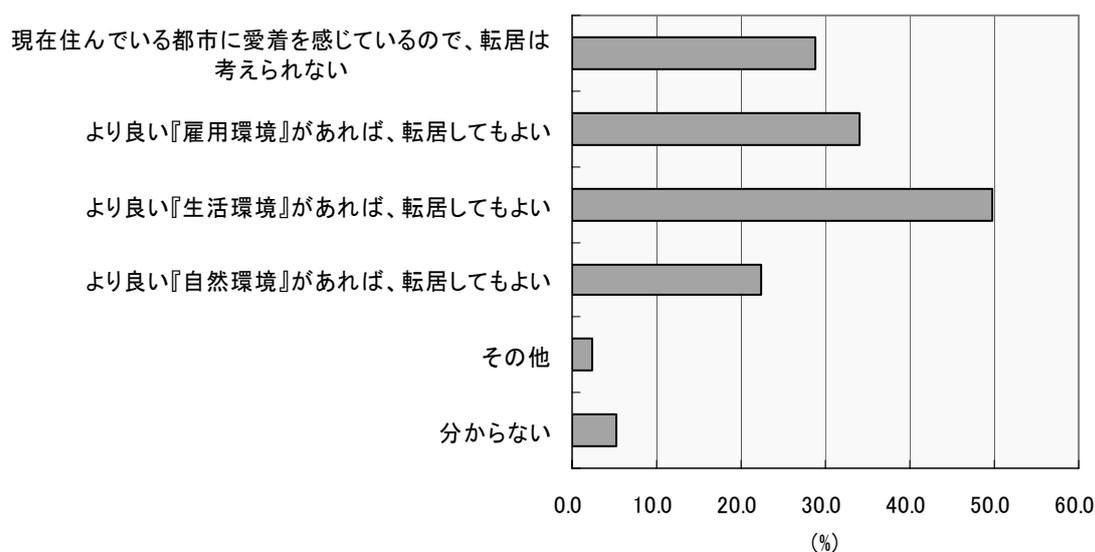
全体では、転居を全く考えていない人が2割いる。残り8割の転居してもよい人の誘引は、第一位が「生活環境」、第二位が「雇用環境」、第三位が「自然環境」の順になっている。

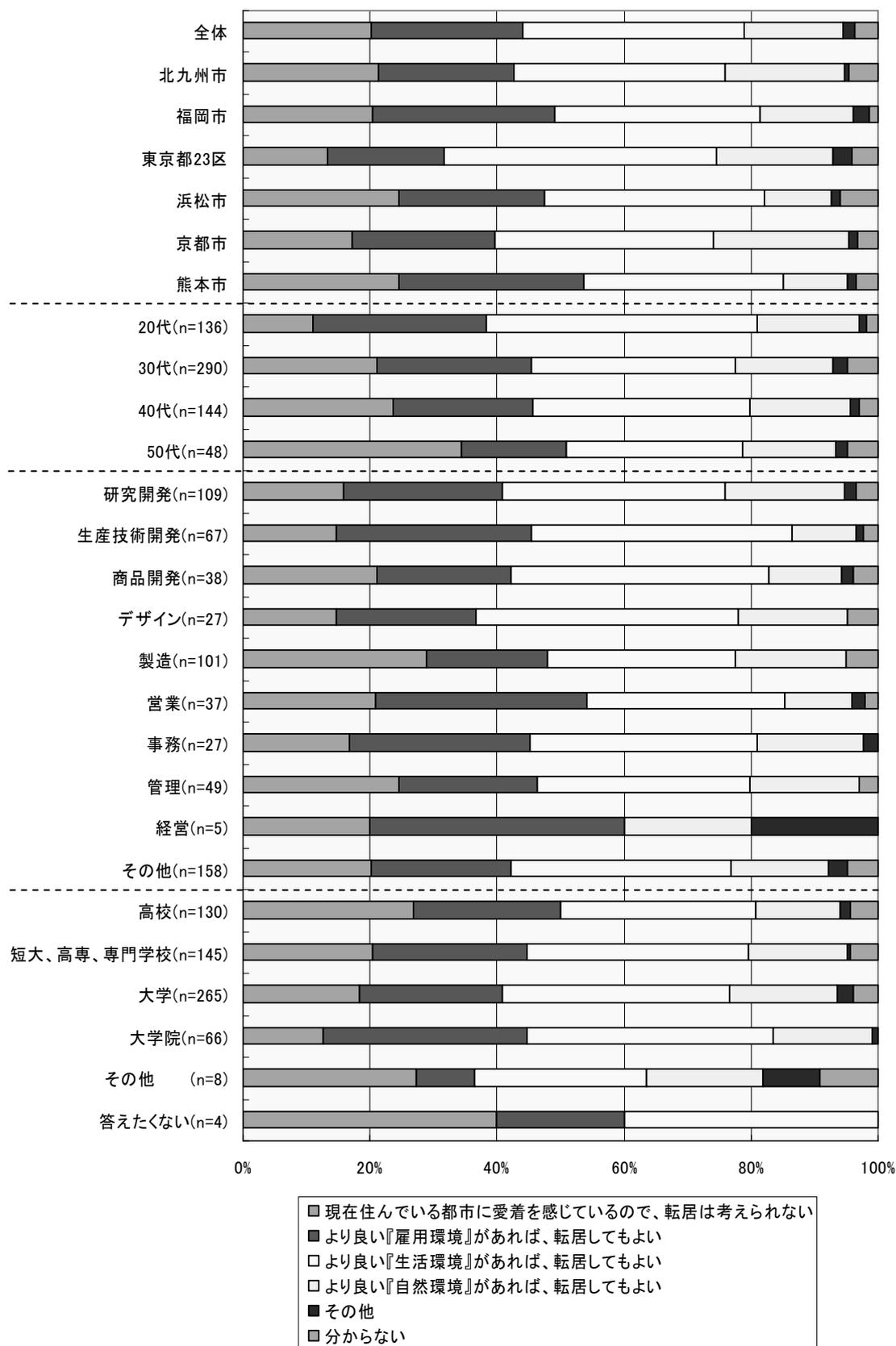
対象地域において、東京23区では定住志向が低く、生活環境が改善されるのならば、転居してもよいと考えている人が多い。なお、就業機会が多いため、雇用の誘引力は弱い。一方、熊本市は生活環境や自然環境に恵まれているため、これらの誘引力は弱く、より良い雇用があるのならば、転居してもよいと考えている人が多い。

年代では、若年者ほど、転居へのハードルが低い。

職種では、終身雇用志向が強い製造職において定住志向が強く、転職・独立志向が強いデザイン職は転居のハードルが低い。職業観（前項②）との間に因果関係があることが分かる。

最終学歴では、仕事と能力向上を重視する大学院卒において、定住志向が弱く、また、より良い環境を求めて転居しようと考えている人が多いことが伺える。また、高学歴になるに伴い、転居のハードルは低くなる。



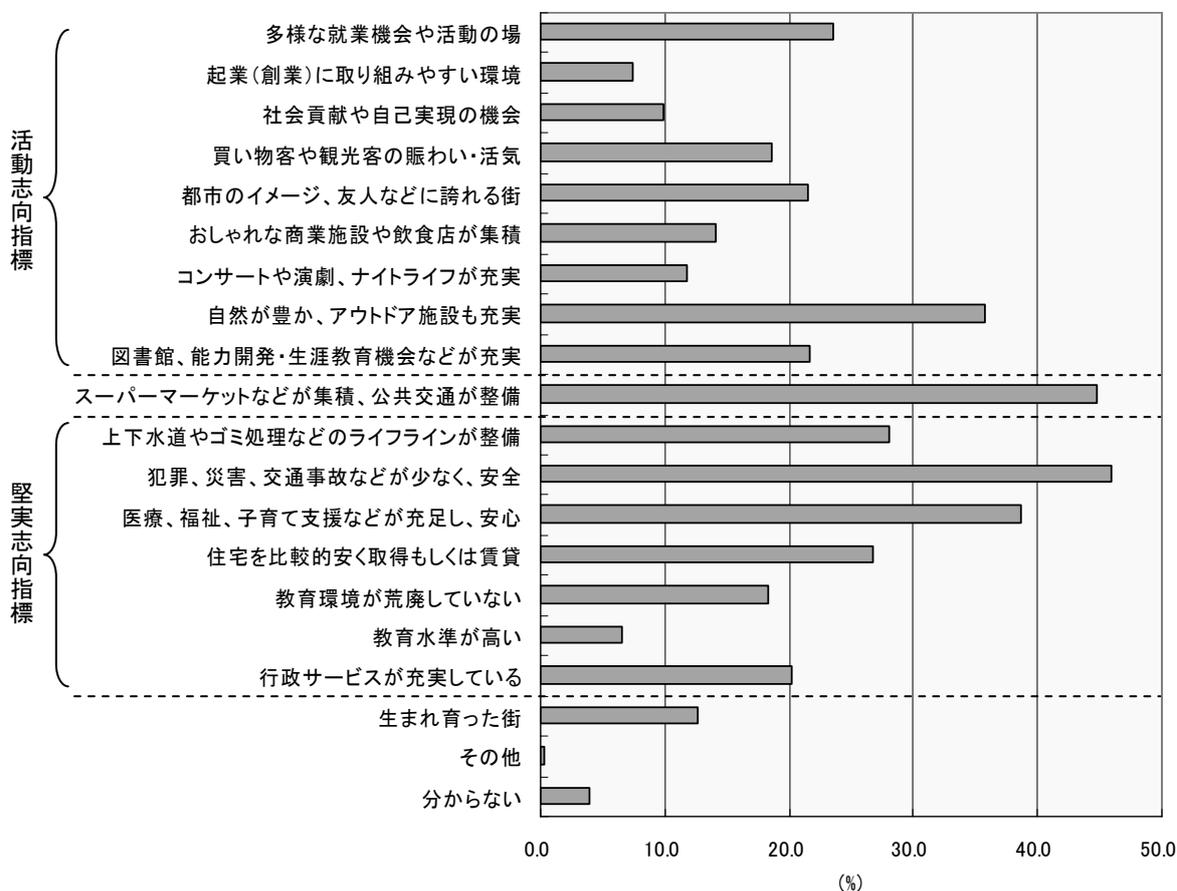


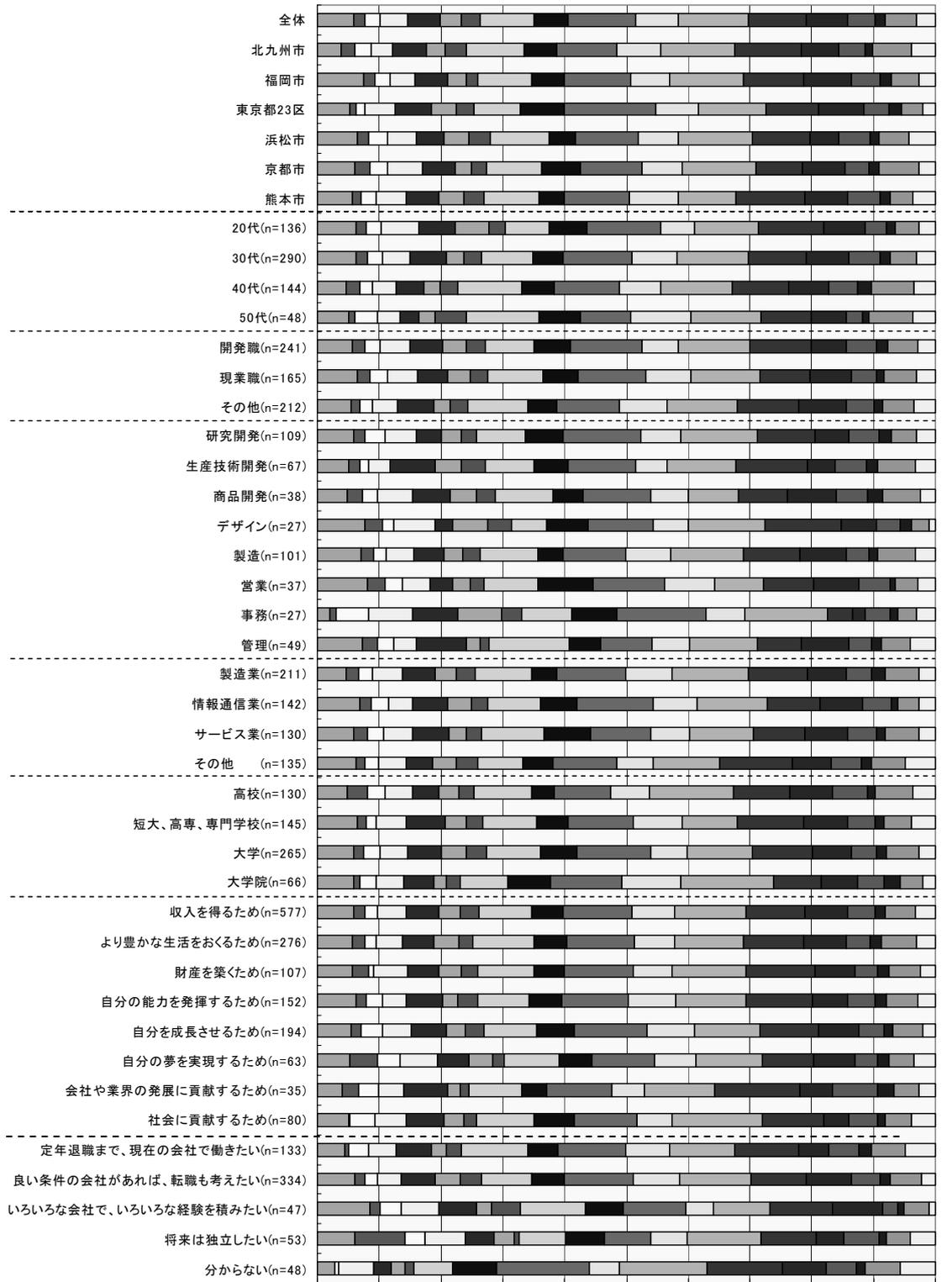
### ⑧住んでみたい都市（複数回答）

全体では、最上位より「犯罪、災害、交通事故などが少なく、安全」、「スーパーマーケットなどが集積、公共交通が整備」、「医療、福祉、子育て支援などが充足し、安心」、「自然が豊か、アウトドア施設も充実」、「上下水道やゴミ処理などのライフラインが整備」、「住宅を比較的安く取得もしくは賃貸」の順で高く、言い換えれば、「安全」→「便利(買物・交通)」→「安心」→「自然」→「便利(インフラ)」→「住宅」の順になっている。前章で定義づけた「活動志向指標」と「堅実志向指標」の区分で見ると、前者が「自然」のみ、後者が「安全」「安心」「住宅」と6項目中3つ占有しており、それぞれの調査対象地域においても前章同様に堅実な要素を重要視していることが分かる。また、前項⑦の転居誘引において、雇用環境や自然環境よりも生活環境を重視していたこと、同様に④の今後の生活の力点において、仕事や自分自身のことよりも、家庭を重視していたことと一致している。

- 活動志向指標・・・「都市の活気、イメージ、景観」、「魅力ある企業」、「娯楽」
- 堅実志向指標・・・「安全・安心・住宅」、「教育環境」、「行政支援」

なお、活動的な要素を重要視するのは、年代で見ると20代の若年者か、子育てが終わり、第二の人生を考えている50代、業種で見ると、製造業よりも情報通信業・サービス業の従事者、働く目的では、自己実現を志向している人、また、職業観として、いろいろな仕事を経験してみたい転職志向の人であった。また、仕事と自己研鑽に熱心で、転職志向も強い大学院卒者においては、意外にも堅実志向が強く、しっかり働くためには、安らぐ環境が必要であるという公私の区別を明確に持ちたいという意向が伺えた。なお、地域や職種、最終学歴において、顕著な傾向を見つけることはできなかった。





- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 多様な就業機会や活動の場がある<br><input type="checkbox"/> 社会貢献や自己実現の機会に恵まれている<br><input type="checkbox"/> 都市のイメージがよく、友人などに自分の住んでいる街を誇れる<br><input type="checkbox"/> コンサートや演劇が盛んであり、またナイトライフも充実している<br><input type="checkbox"/> 図書館、能力開発・生涯教育機会などが充実している<br><input type="checkbox"/> 上下水道やゴミ処理などのライフラインがしっかりしている<br><input type="checkbox"/> 医療、福祉、子育て支援などが充足し、安心して暮らせる<br><input type="checkbox"/> いじめや暴力などが少なく、教育環境が荒廃していない<br><input type="checkbox"/> 行政サービスが充実している | <input type="checkbox"/> 起業（創業）に取り組みやすい環境がある<br><input type="checkbox"/> 買い物客や観光客で賑わい、活気がある<br><input type="checkbox"/> おしゃれな商業施設や飲食店が集積している<br><input type="checkbox"/> 自然が豊かであり、またアウトドア施設も充実している<br><input type="checkbox"/> スーパーマーケットや銀行などが集積し、公共交通が整備され、便利である<br><input type="checkbox"/> 犯罪、災害、交通事故などが少なく、安全である<br><input type="checkbox"/> 住宅を比較的安く、利便性や自然環境が良いところに、取得もしくは賃貸できる<br><input type="checkbox"/> 教育水準が高い<br><input type="checkbox"/> 生まれ育った街であり、友人が多く、思い出がある |
|---|---|

### ⑨住んでみたい都市の数量化Ⅲ類による基本特性の抽出とサンプルデータの傾向分析

ここでは、住んでみたい都市について、数量化Ⅲ類を適用して、基本特性を抽出し、求められた基本特性に対して、サンプルデータを属性毎に、それらがどのような傾向を示すか、分析することにした。

なお、数量化Ⅲ類の適用にあたっては、カテゴリーが原点の近くに位置しないようにするため、各カテゴリーの単純集計の合計値が、総サンプル数(N=574)の1/3以上、ここでは200を超えるカテゴリーについて、分析の対象から除外した。これは、1/3以上の人が選択しているカテゴリーは、属性の種類にかかわらず、住んでみたい都市を構成する重要な要素であると判断するためである。具体的には、「安全」「安心」「自然」「便利」の4つのカテゴリーを除外した。

表 6-1 分析対象のカテゴリーとその単純集計値

	カテゴリー名	Q12の質問内容	単純集計の合計
活動志向指標	就業機会	多様な就業機会や活動の場がある	146
	起業環境	起業(創業)に取り組みやすい環境がある	46
	社会貢献	社会貢献や自己実現の機会に恵まれている	61
	賑わい	買い物客や観光客で賑わい、活気がある	115
	イメージ	都市のイメージがよく、友人などに自分の住んでいる街を誇れる	133
	商業施設	おしゃれな商業施設や飲食店が集積している	87
	娯楽	コンサートや演劇が盛んであり、またナイトライフも充実している	73
	自然	自然が豊かであり、またアウトドア施設も充実している	(除外) 221
	学習環境	図書館、能力開発・生涯教育機会などが充実している	134
—	便利	スーパーマーケットや銀行などが集積し、公共交通が整備され、便利である	(除外) 276
堅実志向指標	インフラ	上下水道やゴミ処理などのライフラインがしっかりしている	173
	安全	犯罪、災害、交通事故などが少なく、安全である	(除外) 284
	安心	医療、福祉、子育て支援などが充足し、安心して暮らせる	(除外) 239
	住宅	住宅を比較的安く、利便性や自然環境が良いところに取得もしくは賃貸できる	165
	いじめ	いじめや暴力などが少なく、教育環境が荒廃していない	113
	教育水準	教育水準が高い	41
	行政支援	行政サービスが充実している	125
—	地元	生まれ育った街であり、友人が多く、思い出がある	78

### a.基本特性の抽出

数量化Ⅲ類を適用した結果、表 6-2 に示す 1 軸から 5 軸までのカテゴリースコアが得られた。各軸の寄与率及び相関係数(表 6-3)を見てみると、いずれの軸の相関係数は 0.5 を超えるものの、累積寄与率においては、5 軸までで 49.3%、3 軸までで 32.2%となっており、高い値を示してはいない。つまり、各人の住んでみたい都市に期待する要素は、多種多様であり、類似性を見出すことは難しいということである。なお以下、このことを前提としつつ、1 軸から 3 軸までを対象に、住んでみたい都市の基本特性の抽出(軸の解釈)を行った。

表 6-2 カテゴリースコア

カテゴリー	1 軸	2 軸	3 軸	4 軸	5 軸
就業機会	0.754073	0.049776	-0.238832	0.067179	1.021313
起業環境	0.819452	-0.168552	-0.943004	2.276113	2.966813
社会貢献	0.491589	-0.105032	0.364477	2.458152	0.632042
賑わい	1.220133	0.544597	0.420615	-0.555668	0.445251
イメージ	0.797962	0.170507	0.800191	-0.426331	-0.310015
商業施設	1.570446	0.176254	0.896046	-0.708714	-0.285664
娯楽	1.348127	-0.031483	0.263099	-0.673865	-1.432126
学習環境	-0.175560	-0.333070	-0.372936	1.934628	-1.955238
インフラ	-0.419816	-0.408591	-0.693854	-0.492071	-0.690357
住宅	-0.534197	-0.360849	-1.393191	-1.040310	0.272784
いじめ	-1.585168	-0.259448	1.788703	-0.332881	-0.009632
教育水準	-1.723331	-1.858240	2.985187	0.256713	1.300694
行政支援	-0.855167	-0.871651	-0.905353	-0.201416	0.553679
地元	-1.516545	3.818853	-0.094923	0.215437	0.131545

表 6-3 寄与率及び相関係数

軸 No.	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
1	0.5002	11.6%	11.6%	0.7072
2	0.4718	10.9%	22.5%	0.6869
3	0.4187	9.7%	32.2%	0.6470
4	0.3794	8.8%	40.9%	0.6160
5	0.3630	8.4%	49.3%	0.6025

## ■ 1 軸の解釈

カテゴリースコアの値のプラス方向では、「商業施設」「娯楽」「賑わい」が高い値を示している。これは、商業施設や飲食店、コンサートや演劇、さらにはナイトライフが充実し、多くの買い物客や観光客で賑わっている都市である。また「就業機会」「起業環境」の値も高く、さらに「イメージ」も高い。以上を要約すれば、「大都市」を指向していると云える。

一方、マイナス方向を見てみると、「教育水準」「いじめ」「地元」が高い値を示している。これは、生まれ育った愛着のあるまちであり、いじめや暴力が少なく、良質な教育環境を有している都市である。また、「行政支援」「住宅」「インフラ」の値も高く、「平穏な生活」を指向していると云える。

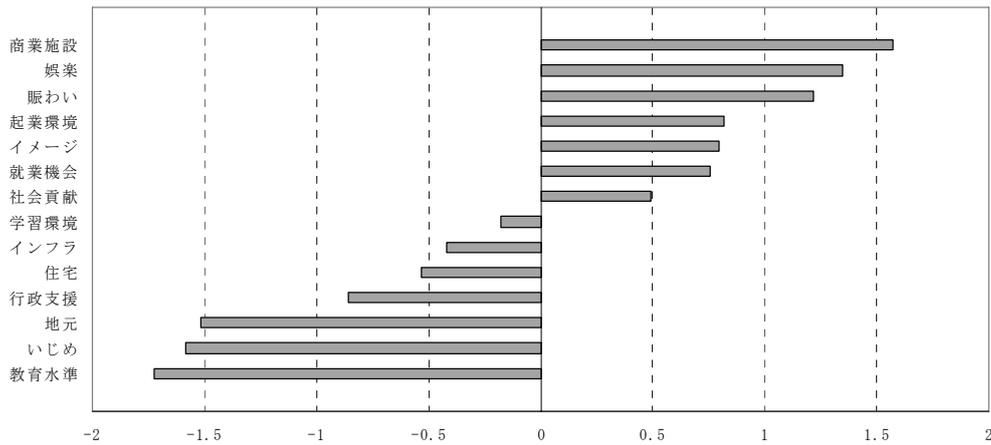


図 6-1 1 軸のカテゴリースコア

## ■ 2 軸の解釈

プラス方向では、「地元」の値が突出しており、生まれ育った思い出が詰まった、幼馴染がたくさんいる都市を志向していることが分かる。

一方、マイナス方向では、「教育水準」「行政支援」「インフラ」「住宅」「学習環境」などが高い値を示している。これは、ごみ処理や上下水道といったライフライン、教育及び住宅環境、図書館や生涯教育などの学習環境、そしてこれらをサポートする行政サービスが充実している都市であり、要約するならば、「都市基盤」を指向していると云える。

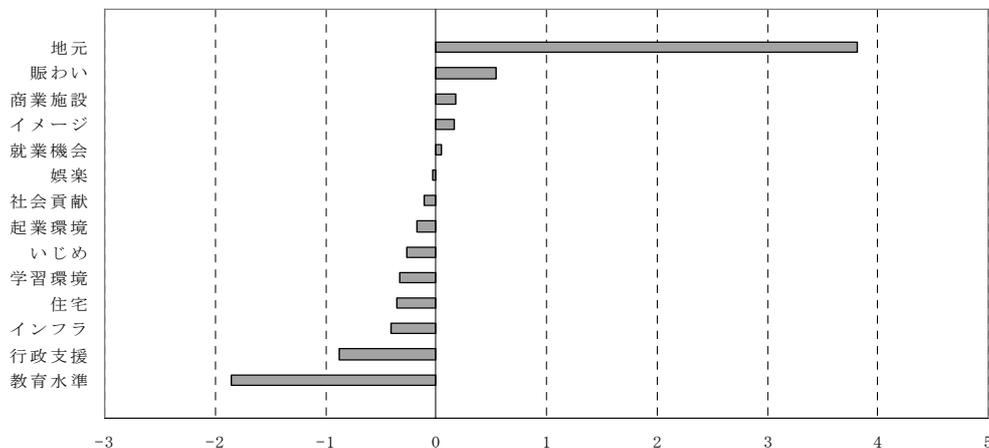


図 6-2 2 軸のカテゴリースコア

### ■ 3 軸の解釈

プラス方向では、「教育水準」の値が突出し、「いじめ」の値も高い。これは、いじめや暴力が少ないなど、教育の現場が荒廃しておらず、かつ進学校が多く、教育に熱心な都市であり、「教育環境」を指向していると云える。

マイナス方向では、「住宅」が高い値を示しており、住宅を利便性や自然環境が良いところに、安価に取得もしくは賃貸することを示している。また、「行政支援」「インフラ」の値も高く、「住宅環境」を指向していると云える。

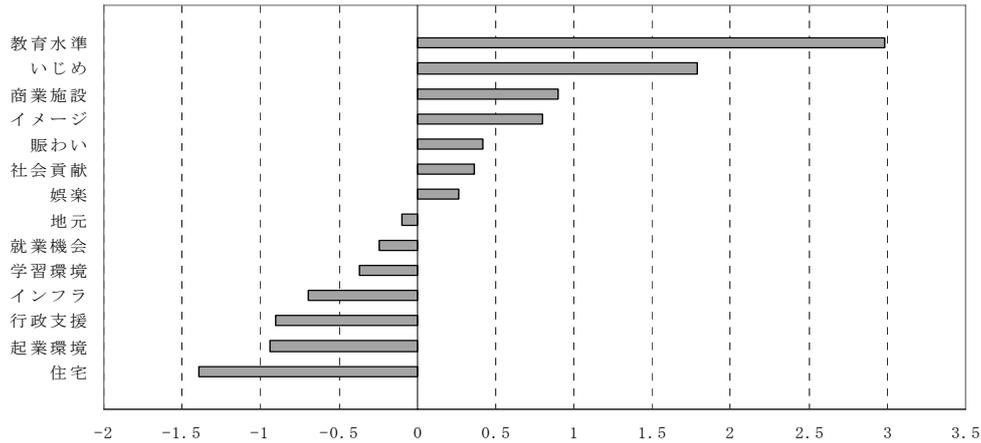


図 6-3 3 軸のカテゴリースコア

以上の 1～3 軸の解釈により、住んでみたい都市の基本特性は、分析の対象から除外した「安全」「安心」「自然」「便利」の 4 つの要素以外に、「大都市」「平穏な生活」「地元」「都市基盤」「教育環境」「住宅環境」の 6 つの要素で説明できることが分かった。なお、これらの 10 の要素において、「都市基盤」「教育環境」「住宅環境」「安全」「安心」「自然」「便利」は「平穏な生活」を営むための要素と考えることもでき、したがって、住んでみたい都市の基本特性は、「大都市」「平穏な生活」「地元」の 3 つに大別することができる。世界で最も住みやすい都市の一つと云われるオーストラリアのアデレードが正にこれら 3 つの要素を備えた都市である(第七章にて詳述)

これらの軸の解釈結果をもとに、軸間のカテゴリースコア散布図を図 6-4～6 に示す。

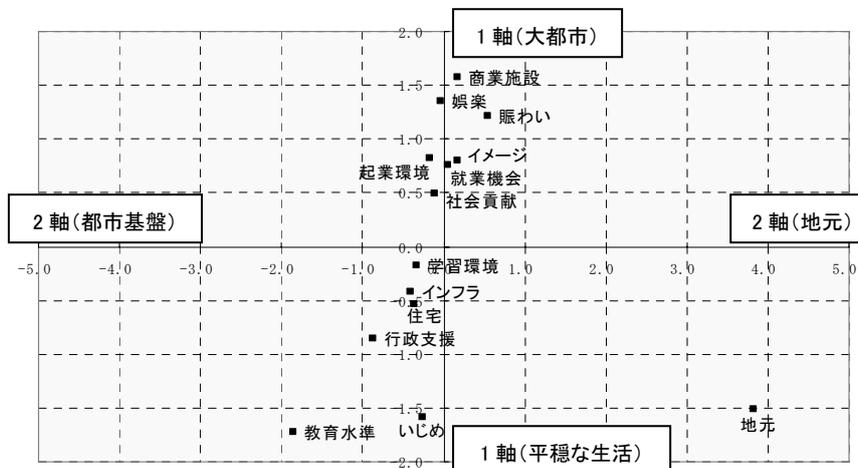


図 6-4 カテゴリースコア散布図(1 軸-2 軸)

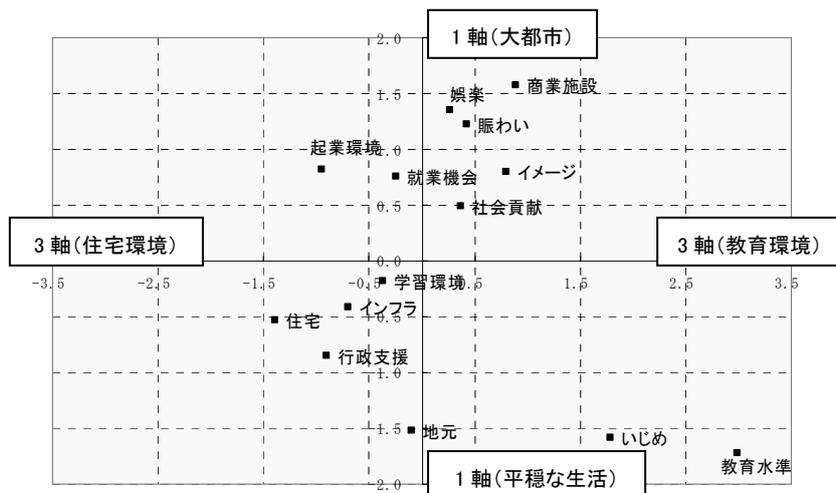


図 6-5 カテゴリースコア散布図(1軸-3軸)

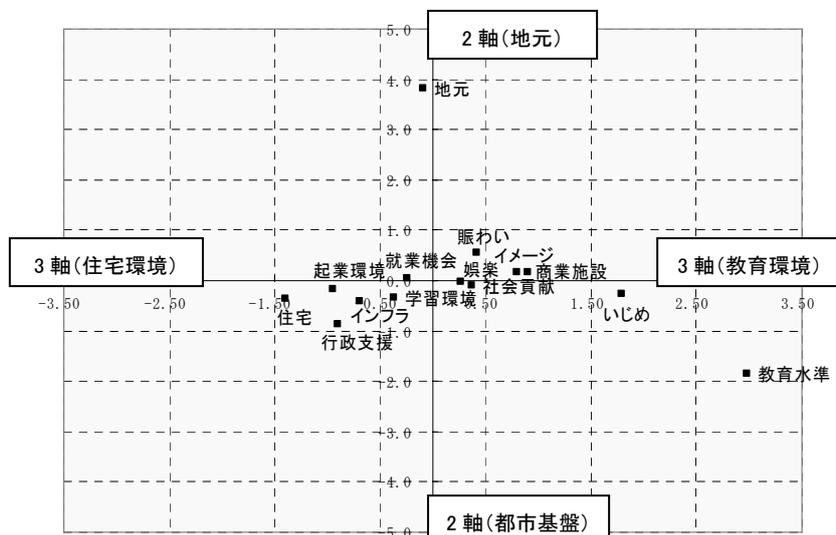


図 6-6 カテゴリースコア散布図(2軸-3軸)

b. サンプルデータの傾向

サンプルデータを「地域」「年齢」「職種」「最終学歴」の4つの属性に分け、前項(2)で求めた6つの基本特性との関係を見てみる。

表 7-4 属性とその内訳

属性	内 訳
地 域	北九州市、福岡市、東京 23 区、浜松市、京都市、熊本市
年 齢	20-24 才、25-29 才、30-34 才、35-39 才、40-44 才、45-49 才、50-54 才、55-59 才
最終学歴	高校、短大等、大学、大学院
職 種	研究開発、生産技術、商品開発、デザイン、製造、営業、事務、管理、経営

■ 「地域」における傾向

図 6-7～9 によれば、6 つの地域は、3 つに集約されることが分かる。一つ目は、「北九州市」「浜松市」「熊本市」のグループである。これら都市の居住者は、地元と平穏な生活を指向している。言い換えれば、大都市の喧騒よりも、安らぎやのどかさを求めていると云える。二つ目は、「東京 23 区」「京都市」のグループであり、大都市であるが故に、住宅環境への期待が高い。その他の要素については、多様な指向のためか、原点近くに位置し、特異な傾向は見られない。三つ目は、「福岡市」であり、前 2 グループの中間に位置している。大都会ではあるが、九州という中央から離れた自然豊かな地域に位置していることから、こういった結果になったものと考えられる。

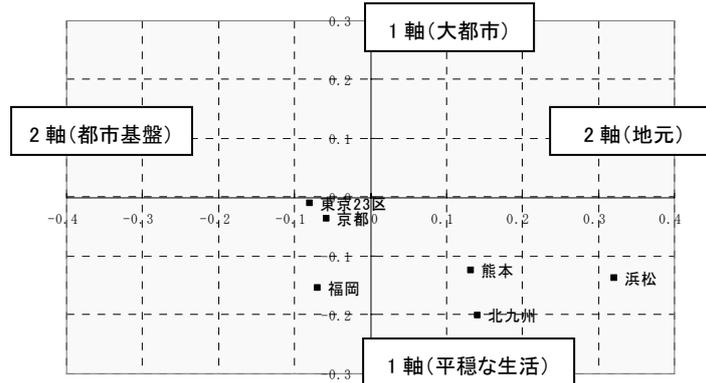


図 6-7 地域スコア散布図(1軸-2軸)

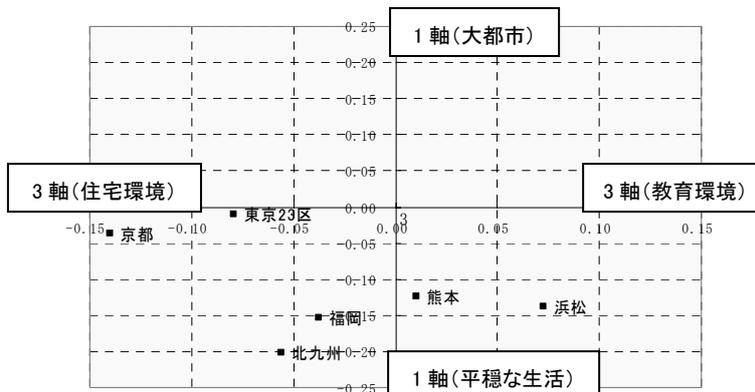


図 6-8 地域スコア散布図(1軸-3軸)

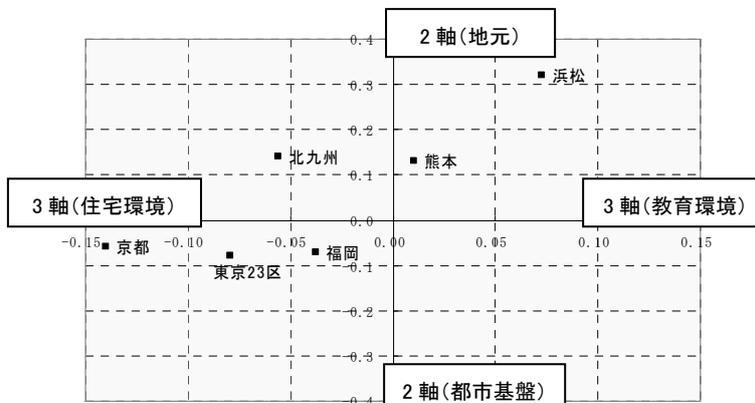


図 6-9 地域スコア散布図(2軸-3軸)

### ■ 「年齢」における特徴

図 6-10～12 によれば、8つの5歳刻みの年齢区分から、3つのグループが特異な傾向を示していることが分かる。一つ目は、「20-24才」の若年者であり、生まれ育った地元に住みつつ、都会の活気ある生活を享受したいと考えている。二つ目は、「30-49才」の働き盛りであり、かつ子育て真最中の世代である。彼らは、仕事と家庭の両面でフル回転し、余裕がなく、疲れているためか、安らぎを求めていることが分かる。先の活発な20-24才とは対照的である。三つ目は、「50-55才」の実年前期世代である。仕事と子育てが一段落した、もしくはしつつある世代であり、のどかなところに居を構えて、ゆっくり過ごしたいと考えていることが分かる。

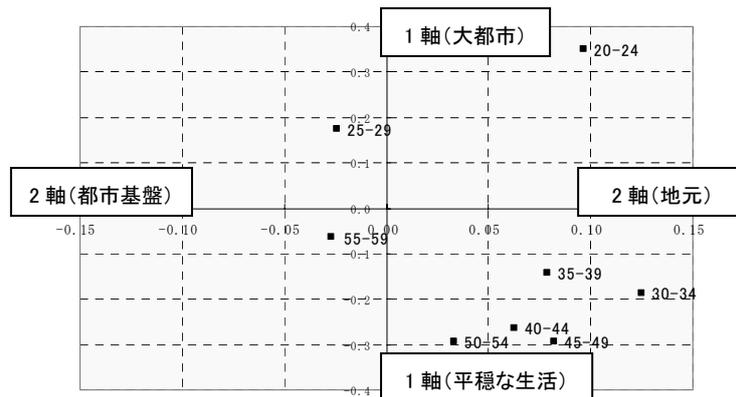


図 6-10 年齢スコア散布図(1軸-2軸)

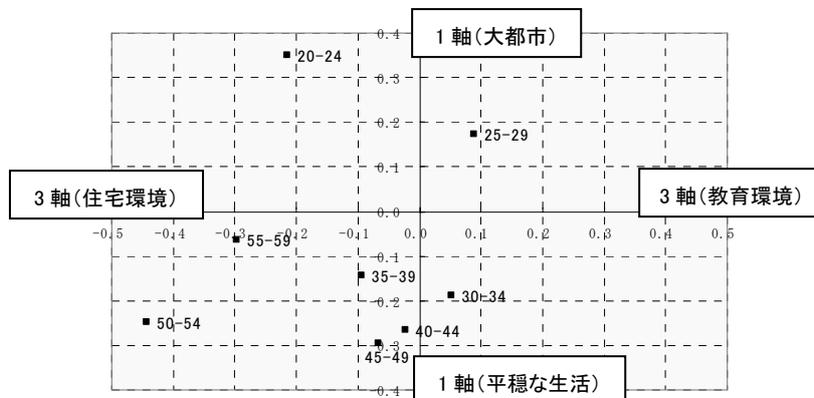


図 6-11 年齢スコア散布図(1軸-3軸)

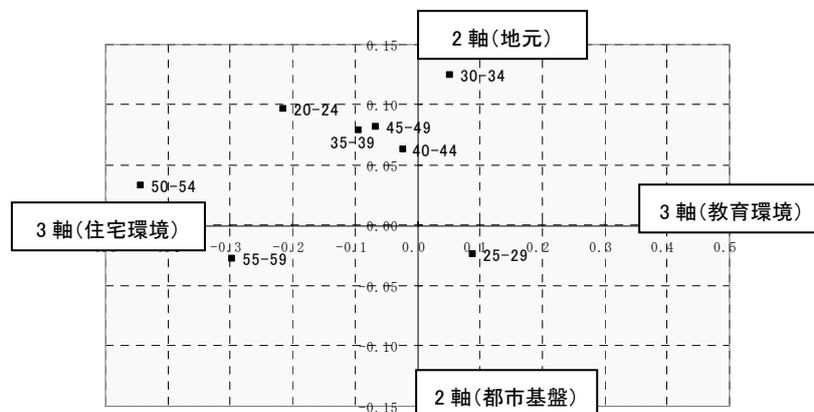


図 6-12 年齢スコア散布図(2軸-3軸)

■ 「最終学歴」における特徴

図 6-13～15 によれば、「高校」と「大学院」において、特異な傾向を見ることができる。まず、「高校」は地元、平穩、住宅を評価しており、生まれ育った地元を居を構え、穏やかに生活したいと考えていることが分かる。一方、「大学院」は都市基盤、平穩、教育環境を評価している。彼らは仕事や自己研鑽に積極的であることが分かっており(前項④)、そのためにはきっちりした生活ができる環境を必要としていることが分かる。なお、「大学」は大衆化したこともあり、玉石混合状態で、平均すると特徴がなくなり、原点近くに位置している。

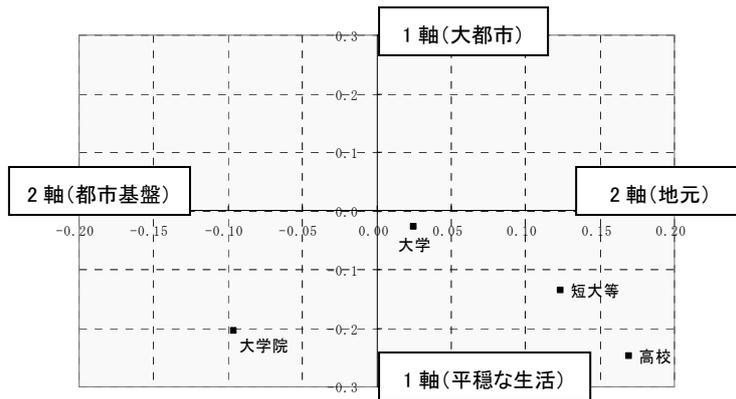


図 6-13 最終学歴スコア散布図(1軸-2軸)

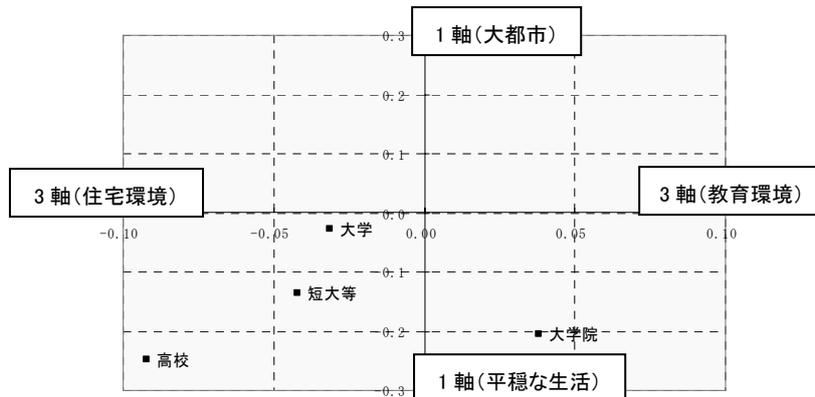


図 6-14 最終学歴スコア散布図(1軸-3軸)

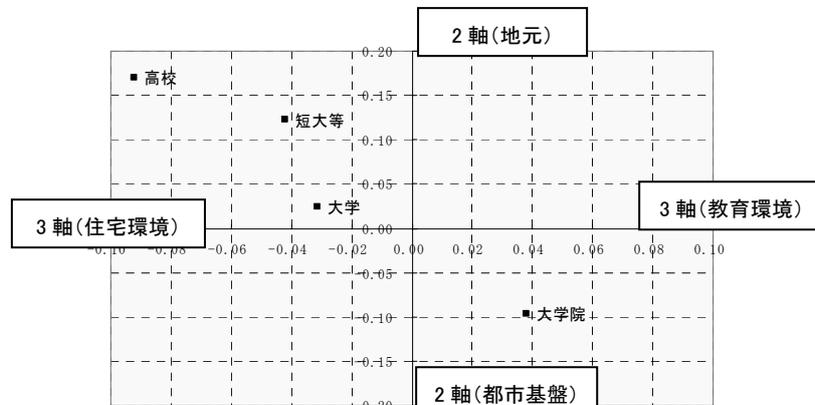


図 6-15 最終学歴スコア散布図(2軸-3軸)

## ■「職種」における特徴

ここでは、まず、開発職と現業職の間に差異があるかどうか、また、開発職に何らかの特異な傾向が見られるかどうか、ということに注目したが、図 6-16～18 を見る限り、差異及び特異な傾向は見られなかった。

次に、区分に着目してみると、「デザイン」と「事務」、「製造」において、特異な傾向を示していることが分かる。「デザイン」においては、大都市と都市基盤を評価しており、都会的な生活を指向している。「事務」においては、大都市と地元、教育環境を評価しており、前述の「20-24 才」の指向に近い。「製造」においては、平穏と住宅を評価しており、ガサガサしない落ち着いた生活を指向していることが分かる。なお、地元指向はない。

開発職である「研究開発」「生産技術」「商品開発」については、前二者の「研究開発」と「生産技術」がほぼ同様の傾向を示しており、地元、平穏、教育環境を評価するなど、保守的な指向が伺える。一方、「商品開発」は商品を扱っていることから、「営業」と同様の傾向を示しており、原点近傍に位置し、特異な傾向は見られない。

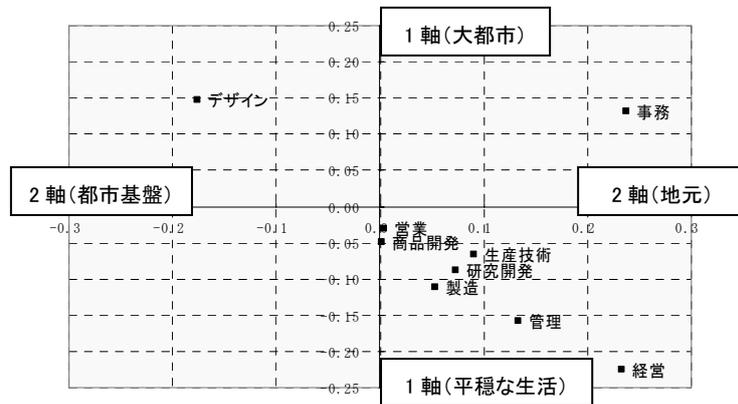


図 6-16 職種スコア散布図(1軸-2軸)



図 6-17 職種スコア散布図(1軸-3軸)

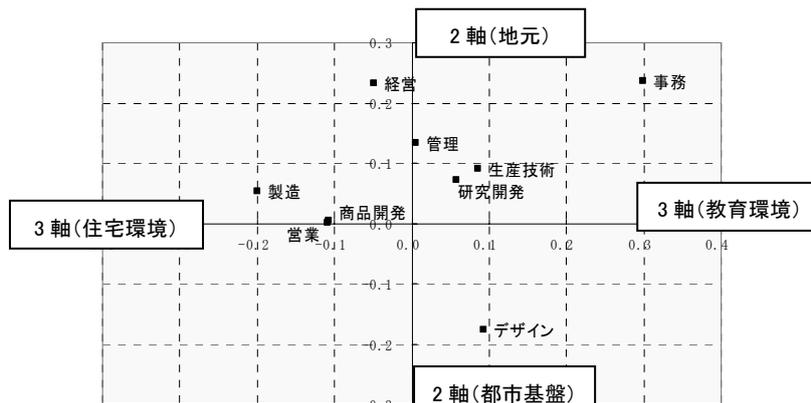


図 6-18 職種スコア散布図(2軸-3軸)

以上の分析結果より、固有の傾向を示した区分について総括したい。地域においては、「北九州市・浜松市・熊本市」「東京 23 区・京都市」「福岡市」の 3 つに大別され、前 2 者において固有の傾向を示すことが分かった。「北九州市・浜松市・熊本市」の居住者は、地元で平穏な生活をおくりたい、「東京 23 区・京都市」の居住者は、住宅環境の良いところに住みたいといった指向を示している。年齢においては、「20-24 才」の若年層と「30-49 才」までの中年層、「50-54 才」の実年前期の 3 つの世代が、現在置かれている仕事、生活の状況によって固有の傾向を示すことが分かった。「20-24 才」の若年層は、地元に住みつつも、都会的な生活をしたい、「30-49 才」までの中年層は、仕事と家庭の両面で余裕がなく、安らぎを求めている、「50-54 才」の実年前期は、第二の人生を見据えて、ゆっくり過ごしたいといった指向を示している。最終学歴においては、「高校卒」と「大学院卒」において、固有の傾向を示しており、「高校卒」は地元で安定した生活をおくりたい、「大学院卒」は仕事や自己研鑽に打ち込める都市基盤がしっかりしたところに住みたいといった指向を示している。職種においては、「デザイナー」「事務職」「製造職」において、固有の傾向を示すことが分かった。「デザイナー」は都会的な生活を送りたい、「事務職」は「20-24 才」に近く、地元に住んで、都会的な生活をおくりたい、「製造職」は落ち着いた生活をおくりたいといった指向を示している。

なお、いずれの区分においても、「安全」「安心」「便利」「自然」といった生活の基盤的要素が、まずは満たされなければならないことは前述のとおりである。

#### 4. 調査分析の総括

全体的に云えることは、堅実な生活を営むことを第一優先に捉えており、経済的な基盤の確保と平和な家庭を築こうとしている。この家族を単位とする生活の基盤ができたならば、自分自身の能力向上や楽しみ、さらには社会貢献に精を出そうと考えている。

もうひとつ重要なことは、ひとつの会社にしがみつ়くのではなく、条件の良いところがあれば、さっさと転職してしまうことである。また、この転職の誘引は、仕事そのものよりも、生活環境を優先するということである。

次に、このライフスタイルが、地域や年代、職種、最終学歴などによって志向が異なるのかを考えてみたい。とくに、Creative City の担い手である開発等に従事する創造的な職業人がどういった志向をしているのか、現業従事者と異なった志向をするのか、興味があるところであった。

その結果、ほとんどの項目において、地域による差異は見られなかった。つまり、東京だから、福岡だからといった確かな特異性はないということである。年代では、20代の若年者は自己研鑽意欲が高く、アクティブな生活を得るために最良の職、居住地を得ようと考えている。一方、子育てや中間管理職として仕事に忙しい40代は余裕がなく、今が精一杯といった感じを受ける。職種では、当初、研究開発などの創造的な業務に従事する人は、まちの賑わいを好み、転職や転居に対してポジティブではないかと予想していたが、一部、デザイン職でこういった志向が見られたものの、総じて、製造や営業、事務などの現業職と、志向の差異は見られなかった。最終学歴では、大学院修了者において、仕事や自己研鑽への意欲が高く、この実現のためには転職や転居をいとまないといった姿勢が見られた。ただし、前項⑧で言及したように、自分を生かせる仕事に対してストイックなのであって、まちの賑わいを求めているのではなく、逆に仕事以外は静かな生活を望んでいる。なお、理工系の大学は既に大衆化してしまったのか、高校卒や短大等卒と志向があまり変わらなかった。

以上を整理してみると、人材を引き付ける、もしくは引き留めるためには、まず、堅実に生活が営める安全・安心で、住宅と教育環境に優れ、行政サービスが行き届いた都市環境を形成する必要がある。そして、その上に都市機能や賑わい、景観を演出することが必要である。次に、少なすぎないサラリーを得られることを前提に、これらの人が能力を発揮できる、仕事を通じて能力を向上させることができる企業の集積を図る必要がある。新技術・新製品の開発や新市場・新顧客の開拓、新プロジェクトの企画など、創造的な業務を有した成長が期待できる企業であることが望ましいと考える。最後に、自分自身の楽しみと社会参加が図れるようにコミュニティ活動の活性化が必要である。仲間と趣味を講じたり、ボランティア活動などを行ったりできるように、フレンドリーなネットワークが容易に形成できる環境を醸成する必要がある。

年齢やその人のバックグラウンド等によって、志向は異なるものの、人々は自由に考え、行動するようになってきた。一時の流行や政策的意向に左右されることなく、“住みやすさとは何だろうか”という原点に立ち返って真面目に都市づくりに精励するならば、きっと有能な人材が集積し、都市が発展するものと考えている。

#### 〔注〕

- 1) 「地域イノベーションの視点からみた北部九州地域の自立の方向性に関する研究」 産業経済プロジェクト実行委員会・北九州市立大学都市政策研究所、2007年3月

## 【調査票】

Q1 あなたは現在、どのようなタイプの会社で働かれていますか？（1つだけ挙げてください。）

※複数に該当している場合は、主な業種をお答えください。

- ① 製造業
- ② 情報通信業
- ③ サービス業
- ④ その他( )

Q2 あなたが現在、働かれている会社の従業員数はどのくらいですか？（1つだけ挙げてください。）

- ① 4人以下
- ② 5人以上 50人未満
- ③ 50人以上 300人未満
- ④ 300人以上

Q3 現在働かれている会社での、あなたの職種は何ですか？（1つだけ挙げてください。）

※複数に該当している場合は、主な職種をお答えください。

- ① 研究開発
- ② 生産技術開発
- ③ 商品開発
- ④ デザイン
- ⑤ 製造
- ⑥ 営業
- ⑦ 事務
- ⑧ 管理
- ⑨ 経営
- ⑩ その他( )

Q4 あなたにとって、働く目的や理由は何ですか？（3つまで挙げてください。）

- ① 収入を得るため
- ② より豊かな生活をおくるため
- ③ 財産を築くため
- ④ 出世や昇進のため
- ⑤ 自分の能力を発揮するため
- ⑥ 自分を成長させるため
- ⑦ 自分の夢を実現するため
- ⑧ 会社や業界の発展に貢献するため
- ⑨ 社会に貢献するため
- ⑩ 国家の発展に貢献するため
- ⑪ 有名になるため
- ⑫ その他( )
- ⑬ 分からない

Q5 あなたの職業観をお聞かせ下さい。（1つだけ挙げてください。）

- ① 定年退職まで、現在の会社で働きたい
- ② 良い条件の会社があれば、転職も考えたい
- ③ いろいろな会社で、いろいろな経験を積みたい
- ④ 将来は独立したい
- ⑤ 分からない
- ⑥ その他( )

Q6 あなたの現在の日常生活における充実感について教えてください。(1つだけ挙げてください。)

- ① 十分充実感を感じている
- ② まあ充実感を感じている
- ③ あまり充実感を感じていない
- ④ ほとんど(全く)充実感を感じていない
- ⑤ どちらともいえない

Q7 あなたは今後の生活において、何に力点をおきたいですか？(3つまで挙げてください。)

- ① 仕事
- ② 自己啓発・能力向上
- ③ 趣味、スポーツ、レジャー
- ④ ボランティア、社会貢献
- ⑤ 家族との団欒
- ⑥ 健康
- ⑦ 資産・貯蓄
- ⑧ その他( )
- ⑨ とくにない

Q8 あなたは、仕事以外に、家庭の外で、どんな活動をしていますか？(3つまで挙げてください。)

- ① 社会奉仕などのボランティア活動
- ② 環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会的活動
- ③ PTAの役員・委員
- ④ 婦人会、自治会、子ども会などの地域活動
- ⑤ スポーツサークル活動
- ⑥ スポーツ以外の趣味活動
- ⑦ 文化・教養・学習活動
- ⑧ 宗教活動
- ⑨ 政治活動
- ⑩ その他( )
- ⑪ とくに活動していない
- ⑫ 分からない

Q9 あなたは、仕事以外に、家庭の外で、将来どんな活動をしたいですか？(3つまで挙げてください。)

- ① 社会奉仕などのボランティア活動
- ② 環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会的活動
- ③ PTAの役員・委員
- ④ 婦人会、自治会、子ども会などの地域活動
- ⑤ スポーツサークル活動
- ⑥ スポーツ以外の趣味活動
- ⑦ 文化・教養・学習活動
- ⑧ 宗教活動
- ⑨ 政治活動
- ⑩ その他( )
- ⑪ 将来においても活動したいとは思わない
- ⑫ 分からない

Q10 あなたは、現在住んでいる都市に愛着を感じていますか？(1つだけ挙げてください。)

- ① 愛着を感じている
- ② 愛着を感じていない
- ③ どちらともいえない
- ④ 分からない

Q11 あなたは、どういったときに、他の都市に転居してもよいと思いますか？（いくつでも挙げてよろしいです。）

- ① 現在住んでいる都市に愛着を感じているので、転居は考えられない
- ② より良い『雇用環境』があれば、転居してもよい
- ③ より良い『生活環境』があれば、転居してもよい
- ④ より良い『自然環境』があれば、転居してもよい
- ⑤ その他( )
- ⑥ 分からない

Q12 あなたは、どのような都市に住んでみたいと思いますか？（5つまで挙げてください。）

- ① 多様な就業機会や活動の場がある
- ② 起業(創業)に取り組みやすい環境がある
- ③ 社会貢献や自己実現の機会に恵まれている
- ④ 買い物客や観光客で賑わい、活気がある
- ⑤ 都市のイメージがよく、友人などに自分の住んでいる街を誇れる
- ⑥ おしゃれな商業施設や飲食店が集積している
- ⑦ コンサートや演劇が盛んであり、またナイトライフも充実している
- ⑧ 自然が豊かであり、またアウトドア施設も充実している
- ⑨ 図書館、能力開発・生涯教育機会などが充実している
- ⑩ スーパーマーケットや銀行などが集積し、公共交通が整備され、便利である
- ⑪ 上下水道やゴミ処理などのライフラインがしっかりしている
- ⑫ 犯罪、災害、交通事故などが少なく、安全である
- ⑬ 医療、福祉、子育て支援などが充足し、安心して暮らせる
- ⑭ 住宅を比較的安く、利便性や自然環境が良いところに、取得もしくは賃貸できる
- ⑮ いじめや暴力などが少なく、教育環境が荒廃していない
- ⑯ 教育水準が高い
- ⑰ 行政サービスが充実している
- ⑱ 生まれ育った街であり、友人が多く、思い出がある
- ⑲ その他( )
- ⑳ 分からない

Q13 あなたの最終学歴を教えてください。（1つだけ挙げてください。）

- ① 高校
- ② 短大、高専、専門学校
- ③ 大学
- ④ 大学院
- ⑤ その他( )
- ⑥ 答えたくない